

TOTO

2023年新春号

Toward a Creative
Architectural
Scene

通信

Special Feature
Stay and Study
at
Heritage
Houses

学
ぶ

泊
ま
っ
て

名
住
宅
に

特
集

Case Study

01

Tetens' Second House by Mayekawa Kunio



前川國男

Case Study

02

Capsule House-K by Kurokawa Kisho



黒川紀章

前川國男

4

黒川紀章

改修／黒川未来夫

14

遠藤 新

改修／神谷修平

24

小泉 誠

34

シリーズ 古写真でみる建築家のアトリエ3

文／山村 健 フランク・ロイド・ライト

42

現代住宅併走54

文／藤森照信「辻別邸」 設計／中原暢子

44

最新水まわり物語60

九段会館テラス

50

TOTOギャラリー・間で展覧会をします How is Life? —地球と生きるためのデザイン 56

News File

TOTO News, Cera Trading News, Books 58

表紙／「カプセルハウスK」の外観。
表紙撮影／川辺明伸
編集制作／伏見編集室
デザイン／岡本一宣デザイン事務所
印刷／ゼネラルアサヒ

特集 名住宅に 泊まって 学ぶ

Case Study
03 Hayama Kachi House by Endo Arata



Case Study
04 Sumire Aoi House by Koizumi Makoto



かつて宮脇檀は俵屋旅館のことを実測ばかりしてしまっているので「疲れる旅館」と称したという。宮脇に限らずとも、建築家は建築から学ぶとうとする。ただ旅館とは異なり、他人の所有物である住宅を堪能することは難しい。まして相当親しくでもない限り、他人の住宅に寝泊まりする機会はほとんどないが、住宅の本質は、少しでも暮らしてみないとわからないのではないか。そこで、たとえば民泊として開かれている住宅を体験してみてもどうか。歴史的な名住宅のなかにも、宿泊できるものがある。宿泊者にとっては絶好の機会だが、じつは収益を得ながら保存が叶う、名住宅にとっての生存の道でもある。そんな「疲れる宿」になった住宅を集める。

TOTO 通信

Toward a Creative
Architectural Scene
Number 532
New Year 2023

ケーススタディ1	前川建築に泊まり、建築史の考察を	「旧テーテンス別邸」
ケーススタディ2	惜別のカプセル建築に、まだ寝泊まりできる	「カプセルハウスK」
ケーススタディ3	ライトの幾何学を再解釈する一夜	「葉山加地邸」
ケーススタディ4	日常の延長線上で、50年代小住宅を味わいなす	「スマリアオイハウス」

「TOTO通信」は
インターネットでも
ご覧いただけます。

→ <https://jp.toto.com/pages/knowledge/useful/tototsushin/>



作品

設計

旧 テーテンス別邸

前川 國男



長年、現存する前川國男の戦前の木造建築は「前川國男自邸」（江戸東京たてもの園へ移築）のみとされてきた。しかし、2020年に新たに発見されたのが、この「旧テーテンス別邸」である。前川の木造モダニズム建築に宿泊できる希少な機会に、私たちは何を学ぼうか。

居間からの眺望。天井
下すべてをガラス建具と
している。



前川建築に泊まり、建築史の考察を

購入した平屋の隣に立つ
どこか味わいのある日本家屋。調べていくと
前川國男の建築だったと判明した。



南面外観。丸太柱が軒を支える。居間、テラス、庭、そして目の海へと空間が開けていく。



発見された家

「旧テーツェンス別邸」は「発見された家」である。建築家・前川國男がドイツ人設備エンジニアのアウグスト・ペーター・テーツェンス（1883〜1966）の依頼で設計し、42年に竣工した。所在地は熱海市伊豆山稲村、戦前からの別荘地に立つ。近くには「前川熱海別邸」も立っていたが、こちらは人手に渡ったのち、取り壊されたという。

この「旧テーツェンス別邸」と「前川熱海別邸」は、前川國男の生誕100年を記念して開催された展覧会のカタログ『建築家・前川國男の仕事』（美術出版社、2006）と、松隈洋『建築の前夜 前川國男論』『みず書房、2016』の、どちらにも記載がない。松隈によれば、銀座にあった前川の事務所は45年の東京大空襲で焼失し、戦前の図面が残っておらず、原図を持ち帰っていた前川自邸は難を逃れたとのことである。松隈は、前掲書において、前川は35年の独立から戦争が始まる41年12月8日までのあいだに、12軒の計画案を含む31軒の住宅を設計していると記しているが、戦争中の住宅設計に関しては自邸以外言及していない。戦前に竣工した「守屋邸」(36)、「佐藤尚武軽井沢別邸」(37)、「佐藤尚武邸」(37)、「笠間邸」(38)の4軒の木造住宅については言及しているが、それらはいずれも掲載された建築専門誌の誌面を参考にしたと述べ



↓ 東側の階段を降りていくと、青々とした木々の中に建物が見える。

↑ 南側より見る。平面はくの字形に折れ曲がっている。



当時の雰囲気を保ちながら
所有者自らが
丁寧にDIYで改修した。

ている。

図面などの資料が失われたため研究者のあいだでも確認がなされておらず、それゆえ公式の記録に記載されていないこの住宅が、ある日、「発見」された。そして現在は宿泊施設としても利用可能になっている。そこまでの経緯を辿る。

発見の経緯

所有者は「旧テーツェンス別邸」の隣に別荘をもつ夫妻である。夫妻は、古くからの

き後、長くテーツェンス事務所の所長を務めた葉山成三の親族であった。

「旧テーツェンス別邸」を購入したとき、夫妻はこの建物が前川國男の設計であることは知らなかったが、ご近所情報で、前川さんが関係した建物らしいという噂は聞いていたという。「前川熱海別邸」には、内務官僚だった前川の父親・前川貫一が公職を離れた後に住んでいた。戦争末期の金属回収令の際、率先して働きかけをしたことで熱海市から表彰を受けた記録があるので、この地域の人たちのあいだで前川という名前が知られていたことは十分に想像できる。

購入した日本家屋の設計者が前川國男という有名な建築家らしいということで、夫妻も興味をもって前川について調べ始めた。雨漏りで一部柱が朽ちているなど、かなり傷みがひどかったにもかかわらず、夫妻はこちらもDIYで修復し、住宅として使い始める。海外渡航などで長期間家をあけることが多いため、そのあいだは宿泊施設として有効活用しようと考え、2020年に旅館業法の認可を得て簡易宿所として登録し、開業した。

そして先述の佐々木さんが、本業の傍ら「合同会社いへん」を立ち上げ、「旧テーツェンス別邸」の宿泊施設としての管理運営業務を請け負っている。

開業後、噂を察知した建築系宿泊客から、本当に前川國男の設計なのか確かめるべきだと請われた。そこで前川建築設計事務所





Special Feature Stay and Study at Heritage Houses Case Study 01

Tetens'
Second House
by
Mayekawa
Kunio

写真下左／台所。右手
には、大きな片持ちの棚。
下右／東面の出窓から
室内を見る。

↑台所より居間を見る。
左奥に玄関があり、石積
壁のホールには暖炉が
設置された。



に問い合わせて調べてもらったところ、なんとテーテンス事務所に青図のコピーが残されていたことが判明した。図面内容と実際の建物が一致していることから、この建物が前川國男設計の「旧テーテンス別邸」であることが確認された。その後、実測図が作成され、登録有形文化財に登録された（22年10月31日）。

長くなったが、以上が「発見」までの概要である。

理想的ヴィラの数学と 透明性をめぐって

建物は、西側に位置する道路から急な階段を降りてアクセスする。相模湾と初島を眺めつつ下っていくと、手前にくの字形の屋根が見えてくる。南側を向いた居間・食堂棟の西側に、45度振れてふたつの寝室、浴室、トイレを納めた棟が接続する木造平屋の建物が現れる。

さて、本稿の趣旨は「名住宅に泊まって学ぶ」である。なのでなんらか「今日のお宿」から学ばなくてはいけない。ひととおり歩きまわった後、プランを見る。両棟が少しずれて接続していることが気になる。翌朝まで時間もたっぷりあることだし、この一見不自然な平面構成を読み解いてみることにしよう。

簡単な補助線を入れてみる。まず、ホールと物置を、北西側の屈曲部を頂点として切り離してみる。この部分は、構造上は下



↑個室2。メインの寝室として使用されている。景色や波の音から、海を感じられる。



←個室1。もうひとつの寝室。

名住宅での宿泊という
貴重な機会。平面構成を読み解きながら
建築をめぐるとの妄想に耽る。

屋の扱いになっていること、ホールは石貼りで土間と解釈できること、物置とその西側の小部屋はかつては台所と使用人部屋であったことから、付属部分と位置づけられる。次に、南側の2本の円柱をつなぐ線を西側の棟まで伸ばしていくと、建物は4850mm幅の矩形が中央で45度に折れてつながる単純な図形に還元できた。ではなぜこのプランは単純形態ではなくずれて接続するに至ったのか。

南側の2本の円柱の太さは、室内の2本の円柱と同じである。なので架構上は、南側のガラス面までではなく、先ほど補助線

を描いたその先の円柱までが主屋である。したがってこの一見軒下のように見える部分は、ガラス面のセットバックによって生み出された外部化された内部と解釈できる。居間・食堂を3640mm角の正方形をふたつ並べた天井高3000mmの空間とし、回縁と長押で明確に完結させているにもかかわらず、天井の高さや柱の太さと配置から見れば、この吹放しの空間は、明らかに内部空間の拡張領域である。両義的な空間がつくられている。

下屋ではない、もちろんピロティでもない。むしろポルティコと呼びたい半外部空間

間がつくられている。神殿前面の列柱廊と同様の形式だ。そしてこの構成は、「守屋邸」、「前川自邸」、資料がないので平面図だけからの憶測だが「佐藤尚武軽井沢別邸」と「前川熱海別邸」に見られる前川の戦前の住宅に共通する特徴である。モダニストとされる前川の住宅の居間に古典主義を見た。あるいは前川の建築に建築の歴史の厚みが見えたといってもいいだろう。前川自邸の左右対称平面の謎も水解する。

この建築の平面には、古典主義的な平面構成と空間の両義性が併存する。その点においても、前川はル・コルビュジエの弟子であった。

妄想の時空間

さて、名住宅といえども、しょせん個人住宅であり、そこには建主の癖というものが表れる。かゆいところに手が届くホテルのような万人向けのつくり方ではない。これは泊まってみての実感である。言い換えれば、建物はこちらを向いていないということである。だから泊まる側はそっけない相手に対して妄想するしかない。ある意味片思いであり、街ですれ違った美人に対して勝手に妄想を膨らませている隠微な時間に似ている。そんな相手と夜な夜な有り余る妄想に耽れば、それは「疲れる」のはあたりまえである。

つまり、名住宅に泊まるということは、妄想の時空間なのであり、上述のような白日夢を記すに至った原因のすべてはこの建築にある。

竣工時の天井と壁上部を残した浴室。ヒノキ板を大和張りにして通気を確保している。

Special Feature Stay and Study at Heritage Houses Case Study 01

Tetens'
Second House
by
Mayekawa
Kunio

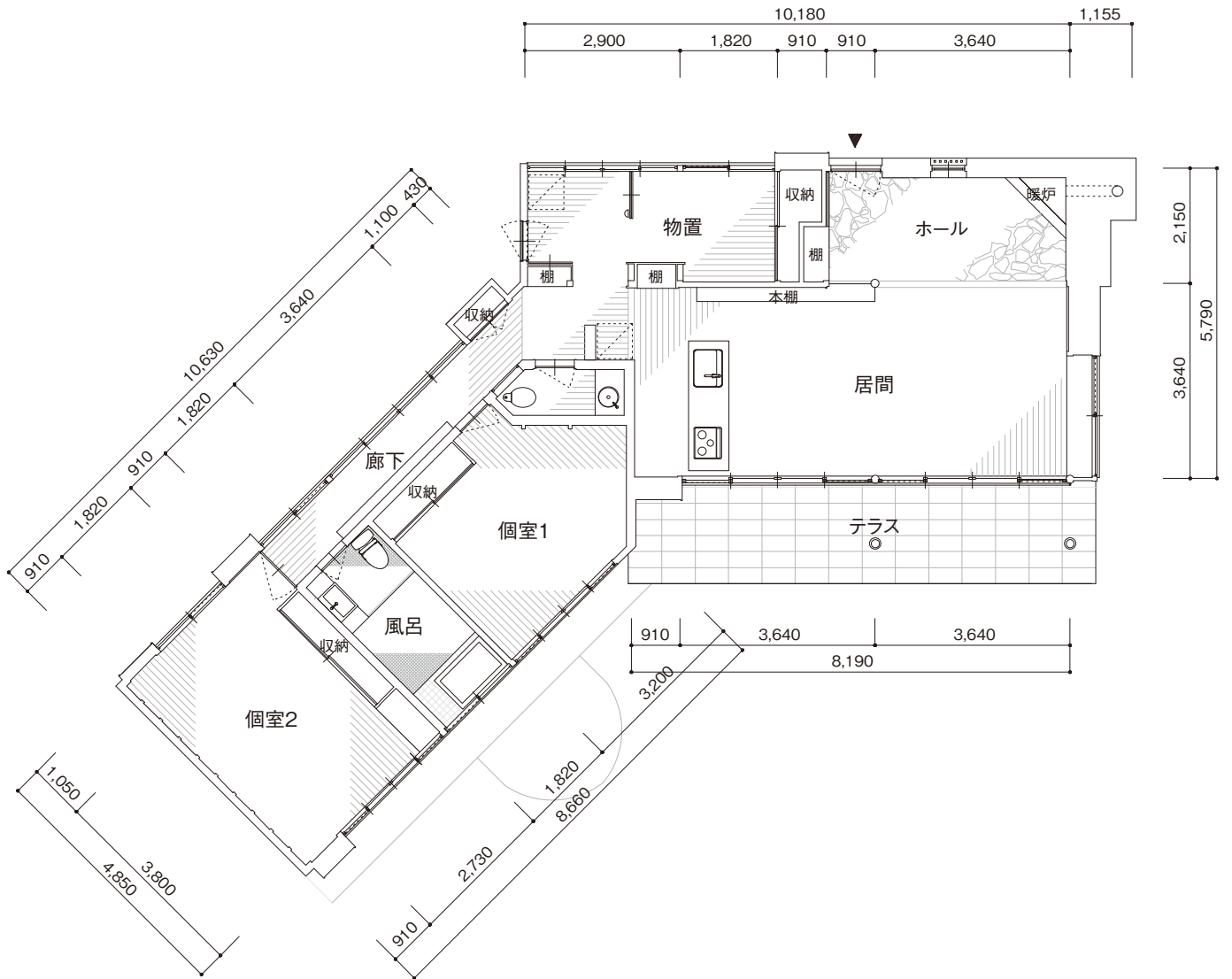


平面図



0 1 2m

1/125



旧テーテンス 別邸



建築概要

所在地	静岡県熱海市
主要用途	専用住宅／宿泊施設
設計	前川國男
敷地面積	498.0㎡
建築面積	115.64㎡
延床面積	105.81㎡
階数	地上1階
構造	木造
竣工	1942年

宿泊概要

施設名	稲村ハウス
料金	1泊 1名28,000円、 2名からは追加10,000円 (税、サービス料別)
定員	1棟貸し、8名まで
チェックイン	15:00
チェックアウト	10:00
問合せ	https://itohen.world/ ※宿泊情報は取材時点のものです。

Mayekawa Kunio

前川國男

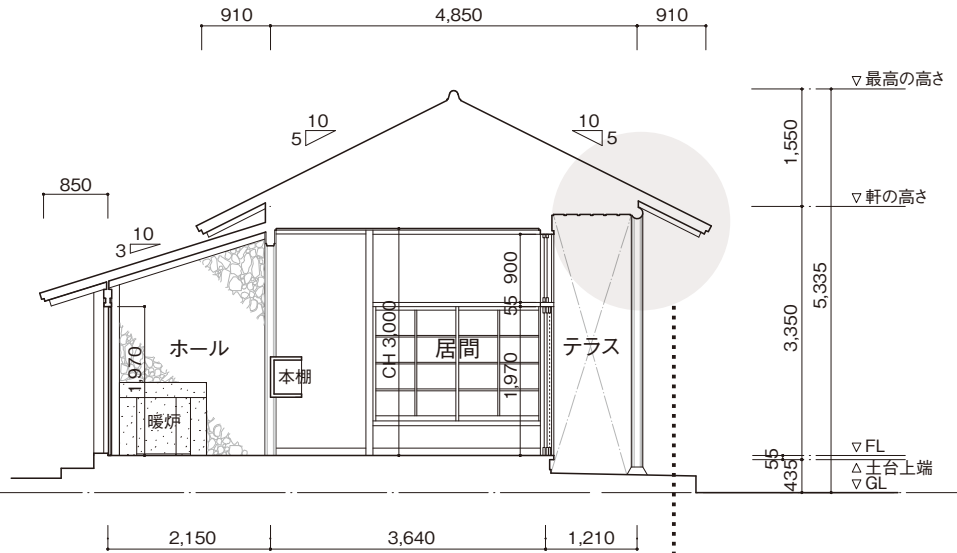
1905年新潟県生まれ。28年東京帝国大学(現・東京大学)工学部建築学科卒業後、渡仏。ル・コルビュジェのアトリエに入所。帰国後、30年レーモンド建築設計事務所。35年前川國男建築設計事務所を設立。86年逝去。おもな作品=「自邸」(42)、「神奈川県立図書館・音楽堂」(54)、「東京文化会館」(61)。

撮影／廣田治雄

断面図

0 0.5 1m

1/100



テラス上部。2本の円柱が軒を支える。

特徴的な半外部空間から前川の設計に古典主義的な一面を垣間見る。

作品

設計

改修設計

カプセルハウスK

黒川紀章

黒川未来夫



メタボリズムを象徴する「中銀カプセルタワービル」は、2022年春に惜しまれつつも解体された。しかし、同時にカプセル建築で唯一現存する「カプセルハウスK」が宿泊施設として開業し、泊まることが可能になった。構造やカプセルの造形に実際に触れながら、メタボリズムの思想を捉えなおす機会が生まれたのだ。

外観。竣工から約50年
が経過し、外装のコー
ルテン鋼も味わい深い色合
いに変化している。

惜別のカプセル建築に、まだ寝泊まりできる

2022年の春、「中銀カプセルタワービル」(以下、「中銀」)の解体が始まった。多くのメディアでニュースが流れ、最後の姿を写真におさめようと多くの人がカメラを向けた。1960年代に若手建築家や都市計画家によって展開された建築運動・メタポリズムの象徴的存在が、惜しまれつつ姿を消した。

「中銀」を設計したのは、建築家・黒川紀章。計画に先立って発表した『カプセル宣言』(69)では、「カプセルは個人を中心とする新しい家族像の確立を目指す」や、「カプセルはホモ・モーベンス(黒川が考えた情報社会において移動しながら仕事や生活をする人々)のための住まいである」など、現在の社会を予言したようなカプセルの諸条件が示された。「中銀」はこの宣言に基づくカプセル型の集合住宅で、エレベータや階段のある2本のコアシャフトに、10m程度の極小カプセルを140戸取り付けたもの。最大のポイントはカプセルを取り外して移動や交換ができることで、まさにメタポリズム(新陳代謝の意)の思想を反映した建築だった。

黒川が手がけたカプセル建築としては、70年に大阪万博の「タカラ・ビュートイリオン」や「空中テーマ館住宅カプセル」の提案があり、72年に「中銀」が完成。翌年には軽井沢に「カプセルハウスK」(73)が続き、「大阪ソニービル」(79)も実現した。

しかし、万博はもちろん、「中銀」も解体され、「大阪ソニービル」もすでにない。黒川が手がけたカプセル建築で唯一現存しているのが、ここで取り上げる「カプセルハ



下からの見上げ。地形への影響を最小限にするために斜面にコアを立て、「中銀」と同じ4つのカプセルを取り付けている。

唯一現存する
カプセル建築が宿泊施設に。
「中銀」以上に建築家の意図が反映された空間を
体験できるように。

ウスK」なのである。規模は小さいが構造的な考え方は「中銀」と同じ。コアシャフトに同型(BC125型)のカプセルが付き、内装まで同じものがある。そんな「カプセルハウスK」が、22年に宿泊施設へと生まれ変わり、希望すれば誰でもその建築を体験できることになった。築50年を迎え歴史的存在になりつつあるこの建築を、いかに

体験するか。黒川の長男で、この建物を所有する黒川未来夫さんに話を聞いた。

コールテン鋼と ドーム窓

「カプセルハウスK」は、軽井沢駅から車で30分ほどの距離にある。敷地は御代田町

の別荘地の枝分かれした山道を登りきった先。山の稜線に配慮し、建物は道路より下のレベルにつくり、コアシャフトの屋上テラスが宿泊客を迎える。昔はここから浅間山が一望できたというが、今は栗、松、紅葉などが成長し、緑のカーテンをつくる。尾根伝いに建物が見える場所があるというので、未来夫さんに案内してもらった。

建物の構成は、外から見ると、「コアシャフト」に4つのカプセルが付いていますね。この建物は、メタポリズムがもつ可能性を示そうとした別荘のモデルハウスなんです。『中銀』では潮風や排気ガスの影響でコールテン鋼の外装を断念しました。また、防火の扱いからドーム形のアクリル窓も断念した。それが、ここでは実現しているんです。黒川のやりたかったことがより反映されています。『中銀』の解体は残念でしたが、この規模であれば後世に残せるかもしれない。そのためには、より多くの人に建物やメタポリズムの思想を知ってもらいたい。そんな思いから、宿泊施設として活用することになりました」とのこと。

じつは、この建物。建設以来ずっと事務所が所有してきたが、15年の民事再生法による事務所の解散とともに所有者が変わっ



寝室カプセル1。内装は「中銀」とほぼ同じだが、ここではドーム型のアクリル窓が採用され、より奥行きを感じられる。

ていた。それを、19年にあらためて未来夫さんが買い戻した経緯がある。「建設から50年近くたっていましたし、湿気や虫の多い場所なので、各所に傷みがありました。構造は大丈夫でしたが、台所の底板が落ちるなど、大きな破損があったので、まずは修繕に取り組みました。また、宿泊施設として設備や内装を仕上げる段階では、クラウドファンディングを通して多くの方の協力を得ながら、工事を進めました」と未来夫さん。最終的には91名もの出資者が現れ、「中銀」解体が始まった22年の春には、宿泊施設としてのスタートを切る事ができた。では、テラス脇の外階段を降りて、建物の中に入ってみよう。

カプセルハウスらしい 間取り

玄関に入ると、地下へ降りる螺旋階段と、リビングに続く取次がある。地下にあるのは黒川の寝室。なぜ玄関土間から入るのかというと、この部屋はかつて土足の遊戯室だったから。壁板張りの壁に大きなガラスの丸窓を開け、ゆったりとした寝室になっ



茶室カプセル。和室とドーム窓の対比で近未来的な印象に。

重力を感じさせない
丸窓の意匠は、カプセルそれぞれに
独立性のある表情を生み出している。

ている。

上の階のリビングも同じく木の壁で、コアシャフトとしての意匠が統一されている。ただし、矩形を崩した流動的な空間を強調するように、リビングは横板張りとしている。周囲には、腰壁を設けて床レベルを上

げた廊下がまわり、台所、ふたつの寝室、

茶室の順にカプセルが接続する。興味深いのは、すべてのカプセルが給排水設備をもっていることで、茶室には水屋、寝室にはユニットバス、台所にも当然流しがある。そこでいきるのが廊下の床下空間

で、カプセルからの給排水設備の通路になっている。カプセルの機能的な独立性の高さと深く関係する構成。いかにもカプセルハウスらしい間取りではないか。

隣接する

ハイテクと伝統

カプセルらしい内装をもつのは、寝室である。「中銀」と同じ形状の家具が造り付けられており、銀座から運んで来たかのような錯覚を覚える人もいるかもしれない。この家具には当時高価だったオーディオ機器が埋め込まれているが、ラジオは今でも健在で、チリチリした味のある音が出る。ドーム状の丸窓は、枠に腰掛けると視界がぱっと広がり、森の自然と一体化したような感覚が得られて気持ちがいい。曲面を多用したユニットバスのデザインも加わり、宇宙船にでも乗ったような気分だ。

しかし一転、隣のカプセルはなぜか茶室である。これは、小堀遠州を参照したものだが。黒川は都心の自宅マンションにも小堀遠州による閑雲軒の写しをつくり、「唯識庵」と呼んだ。その茶室には、最先端の





Special Feature Stay and Study at Heritage Houses Case Study 02

Capsule
House-K
by
Kurokawa
Kisho

写真下左／寝室カプセル2。右手に水まわり。下右／小堀遠州の茶室を参照して設計された。障子を閉めると、カプセルの中であることを忘れさせる。

↑コア内地下1階の主寝室の丸窓はフラットなガラス製。以前は遊戯室として使用されていた。



コンピュータを置いた書斎が隣接し、伝統的な茶室空間とハイテク技術をもつ書斎空間とが同居していた。「スペースシャトルの中に茶室を」というのが、技術と人間らしさの共生を説くときの黒川のスローガンだったらしいが「カプセルハウスK」もよく似たシチュエーションだ。技術と人間らしさの共生。黒川のメッセージが聞こえてくるようだ。

丸窓が生み出す 独立性

ところで、多用された丸窓にはどのような意味があるのだろうか。未来夫さんは、「この建物に滞在するうちに、丸窓というのは、重力を感じさせない力があると思うようになりました。カプセルに浮遊感が出て、個の独立した印象も増します。それは黒川にとって大事なことだったのでないでしょうか」という。確かに、丸窓がカプセルを軽快に感じさせ、独立性も高めている。未来夫さんの話を聞いて、カプセルごとの機能的な独立性は、この丸窓によって意匠的にも補強されているのだと理解できた。



寝室カプセルにはそれぞれユニットバスが付属している。

新たな課題も。滞在のなかから新しいカプセルの構想が生まれるかもしれない。

新しいカプセルを 考えよう

宿泊施設としてのスタートを切って以来、宿泊はもちろん、映画や服飾ブランドの撮

4つあるカプセルのうち、台所は設備の集合体なので、やがて新しいカプセルに交換してもよいのではないかと考えています」とのこと。確かにそれはメタボリズムの思想に合致する。ただ、宿泊施設としては課題も抱えているという。「トイレは、ふたつの寝室カプセルの中にあります。そのため3人以上で宿泊すると、夜トイレを使えない人が出てくる。宿泊施設としては布団などのかさばるアイテムも多いですが、収納がほとんどなく困っています。みなさんの意見も聞きながら、今後じっくり解決策を考えていきたいと思っています」と言う。

影、デザイン関係の会合など、さまざまな利用がされた。お茶会の利用もある。今後の計画を聞くと、「竣工当時の写真を見ると、崖下から撮った写真があります。今は危なくて行けません。歩道を整備して昔と同じ視点を提供したいと考えています。また、

そんな話を聞くと、黙っていられないのが建築の設計者。もしあなたが宿泊するものがあれば、カプセルの構造や接合部、配管などを確認しながら、新しいカプセルを設計してみたくはないか。今回の修繕工事で点検口の数も増えたというし、カプセルの想像を通して、建物への理解も深まっていくにちがいない。「カプセルハウスK」も、人によっては相応に「疲れる宿」である。リビングの机にスケッチブックを置いたなら、いつか宿泊者のカプセル図集ができるかもしれない。



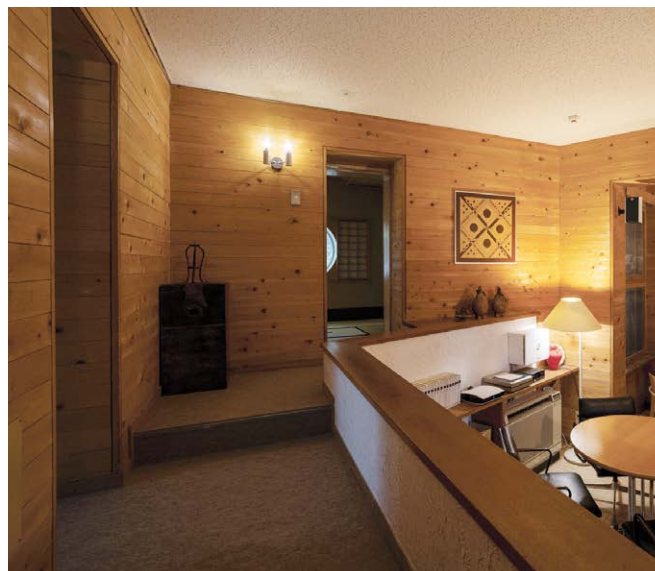


Special Feature Stay and Study at Heritage Houses Case Study 02

Capsule
House-K
by
Kurokawa
Kisho

写真下左／リビングは各
カプセルに接続している。
下右／コア内1階のリビ
ング。壁は木の仕上げで
あたたかみのある空間に
なっている。

↑台所は丸窓ではなく、
はめ殺し窓と片開き窓と
なっている。秋には周囲
の樹木が紅葉するなど、
四季を感じられる。

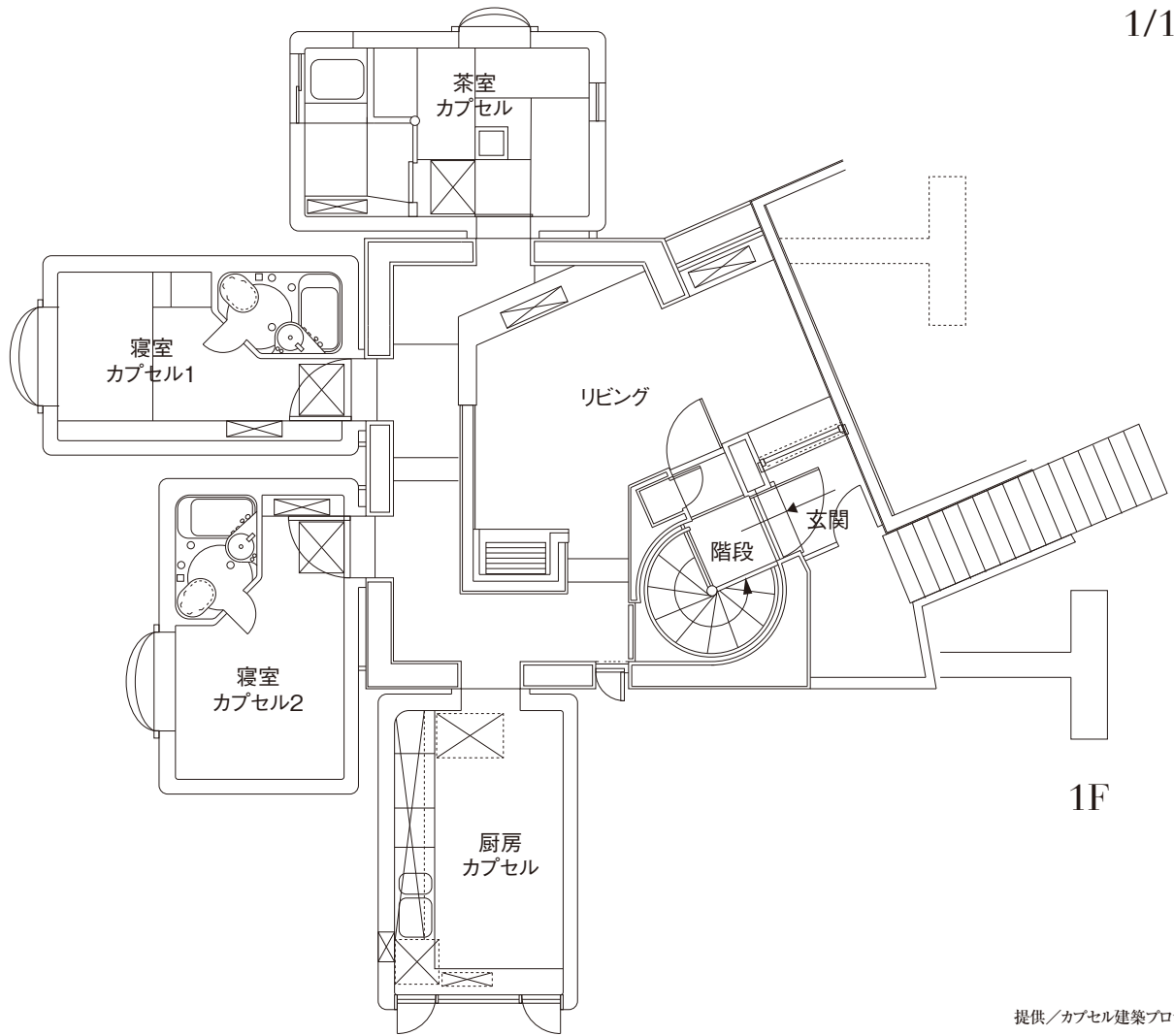


平面図



0 0.5 1m

1/100



提供/カプセル建築プロジェクト

竣工時



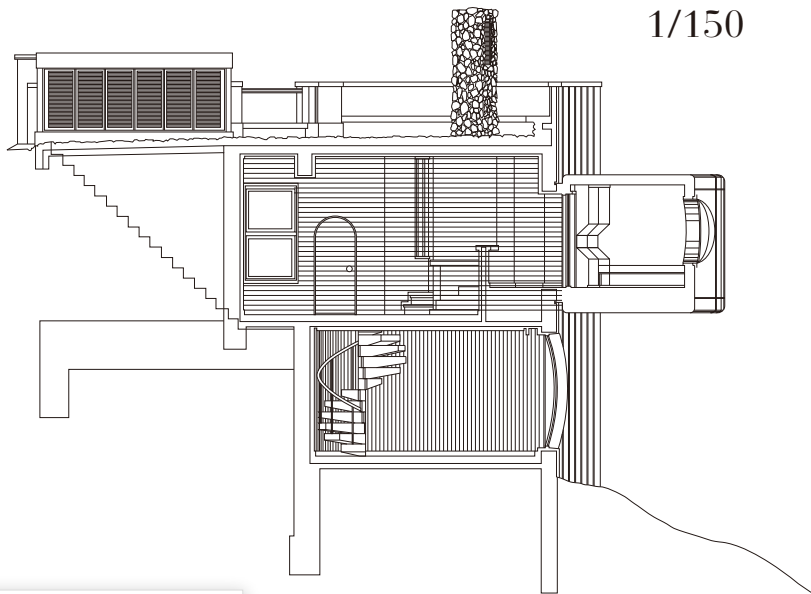
撮影/大橋富夫

1973年の竣工当時の様子。当時はまだ樹木の背も低く、正面の浅間山が眺望できたという。

断面図

0 1 2m

1/150



カプセルハウスKの
取材動画を
ご覧いただけます。



カプセルハウスK



建築概要

所在地	長野県北佐久郡御代田町
主要用途	別荘／宿泊施設
設計	黒川紀章
改修設計	黒川未来夫
敷地面積	2,314.00㎡
建築面積	75.82㎡
延床面積	103.32㎡
階数	地上1階、地下1階
構造	RC造
竣工	1973年

宿泊概要

施設名	カプセルハウスK
料金	1泊 187,000円～ (税、サービス料別)
定員	1棟貸し、7名まで
チェックイン	14:00～15:00
チェックアウト	12:00
※宿泊情報は取材時点のものです。	

Kurokawa Kisho

黒川紀章

1934年愛知県生まれ。57年京都大学工学部建築学科卒業。64年東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程単位取得退学。東大在学中に黒川紀章建築都市設計事務所設立。2007年逝去。おもな作品=「中銀カプセルタワービル」(72)、「国立文楽劇場」(83)、「国立新美術館」(2006)。

Kurokawa Mikio

黒川未来夫

1965年東京都生まれ。90年東京藝術大学美術学部卒業。2008～16年黒川紀章建築都市設計事務所代表取締役。17年～MIRAI KUROKAWA DESIGN STUDIO代表取締役。20年～東亜大学大学院総合学術研究科デザイン専攻客員教授。



自然と共生しながら
メタボリズムの思想と実験が
これからもつづく。

写真上／屋上でもあるエントランス。階段を降りて玄関へ。下／玄関から地下の寝室へつづく、木製の螺旋階段。



作品

設計

改修設計

葉山加地邸

遠藤 新

神谷修平



ライブラリー2からサロンを見下ろす。左右のギャラリーからサロンを見下ろす構成は、帝国ホテルを彷彿とさせる。

ライトが掲げたプレーリースタイルを色濃く踏襲した「加地邸」。建築からインテリアまで「全一」の濃密なものづくりは、圧倒的な説得力をもつ半面、現代でそれを叶えるのは難しいことも多い。しかし造形に多用されている幾何学というモチーフは、時代を経ても継承や再解釈がしやすい。継承や設計のヒントになるのではないか。

取材・文／植林麻衣 写真／傍島利浩



ライトの幾何学を再解釈する一夜

1階サロンは、遠藤新がデザインした家具を修繕・再利用して竣工時の雰囲気をよみがえらせている。



2階の眺望室。相模湾を眺望できる。木製の建具も丁寧に修繕した。

「全二」の哲学のもと
濃密な空間を堪能する。

ダイニングの棧のデザインには、色濃くライトの影響が見られる。



五角形のサンルームには六角形の机が配され、幾何学的な意匠が強調されている。

90年を経て 民泊施設に

青々とした山と響き合う、水平に延びる軒と大谷石積み風の柱。フランク・ロイド・ライトが掲げたプレーリースタイルを色濃く踏襲した「葉山加地邸」は、山にいだかれ海を望む葉山の風景によく似合う。

「葉山加地邸」が建てられたのは今からさかのぼること、およそ90年前の1928年。三井物産や大正海上火災保険の重役などを歴任した加地利夫の別邸である。設計を手がけたのは、ライトの愛弟子として知られる建築家・遠藤新。ライトが帝国ホテルを設計する際は右腕として奮迅し、共作として「自由学園明日館」(22)や「旧山邑邸」(24)などを完成させた。この「葉山加地邸」にも師・ライトへの敬慕の念が、随所に宿っていることが見てとれる。

この別邸は加地家で数代受け継がれてきたのちに別荘として維持管理されてきたが、ついに手放されることになる。葉山を代表する建物のひとつとして、地元有志や住宅遺産トラストが新たなオーナーを迎えるべく維持に努めるなか、2016年に名乗りをあげたのが、武井雅子さんだ。

雅子さんは、夫の泰士さんとともに、空きビル・倉庫のリノベーションやフードウェアの事業を営む。クラシックカーの愛好家でもあり、知人から「古いものは好きでしよう」と声をかけられ加地邸を訪問したところ、時を経た建物もつ風格と、隅々まで貫かれた造形美に惹かれ、継承を意欲。「クラシックカーは、前の所有者が施した改



↑軒など水平のラインが特徴的なプレーリースタイルの外観。

←玄関へのアプローチ。屋根や軒、大谷石積み風の柱によって美しく構成されている。

名建築の価値を継承しながら 付加価値を創出する。過去と現在をなめらかにつなぐことを 意識した改修を施した

造も含めて価値があるもの。時を重ね、記憶が受け継がれることもまた、建物の大きな魅力だと思います」と雅子さん。

ただし継承するにあたり、ハードルとなつたのが維持管理費だ。構造の状態は基本的ににはよかつたものの、建物は築年数相応に傷んでおり、修繕のための費用を捻出した。つづ、未来につなげていくことが必要だった。

名建築の保全には、記念館のようなアカデミックな運用形態もあれば、レストランのような商業的な活用もある。一度はレストランとしての運営も考えた雅子さんが、

近代建築の巨匠の スピリットを 受け継いで

世界中の目利きにこの建物の価値を味わってほしい——雅子さんはこう構想し、建築家の神谷修平さんにリノベーションを依頼した。巨匠ライトのスピリットが宿るこの名作の価値を受け継ぎつつ、いかに再生させるか。歴史的建造物の保存改修には、修復・復元に徹するか、あえて現代的な価値を加えて保存部分を対比的に見せるか、対極的な手法がとられるのが常だが、ここでは、文化財保護のボーダーラインには抵触せず、過去と現在をグラデーションをつけるように結び、付加価値を創出することが念頭に置かれた。

17年に登録有形文化財に指定されていることもあり、プレーリースタイルを象徴する外観は修理・復原。間取りや意匠も可能な限り残し、家具や照明器具も修復・活用するように努めた。

一方で、本来の空間性を損ねず、宿泊施設としての利便性・快適性が求められる要素は、プレーリースタイルのデザインを現代的に解釈して手を加えた。たとえばダイニングに隣接する1室は、建具をはずしてエタノール暖炉を囲む半屋外のテラスに。また、かつてビリヤード台が置かれていた撞球室は、随所に使われている幾何学モチーフをベースに置き家具を新たにデザインし、フレキシブルに使える空間とした。

キッチンや半地下の浴室は現代的に刷新。地階はもとほ使用人室でデザイン的な特徴



玄関から折り返してダイニング、奥のテラスを見る。扉脇の小窓などにもライトらしい意匠が見られる。

は見られず、文化財としての改修制限もゆるい。上階の床を取り払い梁を現しにして、開放的なスバにつくりかえ、日本独自の入浴文化を満喫できる空間とした。

遠藤新がデザインした椅子のクッション材にまでこだわって修復した雅子さんが、決して文化的に忠実な復元に拘泥するつもりはなかった、と振り返る。「学術的な再現性だけにとらわれていたら、前に進むことはできなかったと思います。実際にアメリカでライト建築をめぐり、風土と溶け合うダイナミズムとともに、ライトはライフスタイルを設計していたということを体感しました。そんなライトの薫陶を受けた遠藤新さんの建築を、どう未来につなぐか。神谷さんと相談して新たな要素も加えましたが、これでよかったよ」と建物の声が聞こえてくるような気がします」

全一なる対象として 建築を考える

そして、20年10月に民泊施設としてオープン、葉山の人々に愛されてきた名建築に、新たな息吹が吹き込まれた。1階中央のサロンは、吹抜けの左右のライブラリーから見下ろせる構成で、大谷石の使用や幾何学的な意匠もあいまって、帝国ホテルのロビーを彷彿とさせる。しかし体感できる心地よさは、あくまで住宅ならではのもの。プ



2階主寝室。デスクとベッドは改修にあたって新しくデザインされた。

ロボーションの妙や素材遣いはもとより、家具・照明・建具から空間、そして外部空間が一体となって織りなす、特別な空気が漂う。

そこに通底するのは、遠藤新が生涯を通して貫いた「全一」という哲学だ。「全一なる対象として建築を考える」と説いた遠藤は、「部分が相済す美しさ、それがまた全体に参する美しさ、そして更に全体が部分に及ぶ美しさ」という言葉も遺しているが、それを体現する手法のひとつが、建築やインテリアに多用されている幾何学的な造形だ。

「葉山加地邸」でも建具や家具、照明の多

時代を経ても
継承や再解釈がしやすい
幾何学的な造形から
デザインを学ぶ。

くに六角形のモチーフが用いられていたが、これは遠藤新が好んだ蜂の巣や雪の結晶など自然界に存在する造形。自由曲線ではなく直線だけで構成されているため、時代を経ても、継承あるいは再解釈がしやすく、今回オマージュとして新たにデザインした家具・照明にも採用されている。

泊まるという 時間と体験を通じて 得られるもの

現在、「葉山加地邸」ではパーティやウェ

ディングなどイベント利用も可能で、これまでに約30組のゲストを迎えている。宿泊の料金設定は決して安価ではないが、それもこの名住宅を存続させる雅子さんの信念に拠るものだ。

「この建築の真髄に触れたい、と思われる方に来ていただければ。単なる見学ではなく、泊まって寛ぐという体験を通じて、得られる発見があると思うのです」と雅子さんは語る。

たとえば、庭に面した建具の見付け。手前と奥では寸法が微妙に異なり、外に視線を誘導する仕掛けがなされている。また、家具から空間まで一貫通貫する、この時代ならではの濃密なもののづくり。あるいは窓が切り取る、昼から夜へと移り変わる葉山の景色。そして朝を迎えれば、葉山の豊かな自然に棲む鳥の声で目覚め——暮らすように体験するからこそ、見えてくる建築の姿がある。

近代建築はいわゆる文化財と呼ばれる建造物に比べると歴史が浅く、とりわけ住宅をめぐる環境を鑑みれば、保存・維持・活用の体制はいまだ十分ではない。そんな現状にあつて、住宅であった往時の空間を形骸化させず、「生きた建築」としてつなぎ、運用していく「葉山加地邸」の手法に学ぶものは大きい。この建築が積み重ねてきた時間、そしてこれから紡いでいく時間を、五感で堪能してみたい。





Special Feature Stay and Study at Heritage Houses Case Study 03

Hayama
Kachi House
by
Endo Arata

↓ダイニング隣の半屋外のテラス。暖炉とまわりの木製ベンチの意匠は、大谷石の柱をヒントにしている。

↓サロンの裏のプレイルーム。かつてはビリヤード台の置かれた撞球室だった。六角形のテーブルは神谷さんのデザイン。

↑もともと使用人室だった地階を大胆に改修した芦野石貼りのスパ。天井を取り払い、開放的な空間になった。寝浴すると竣工時の梁組みを見上げられる。



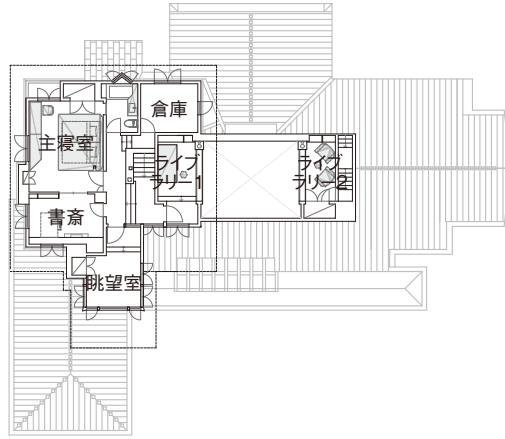
平面図



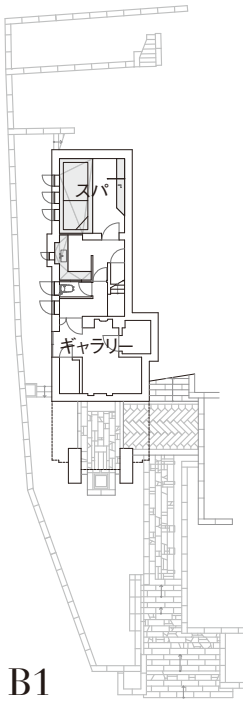
0 2 4m

1/400

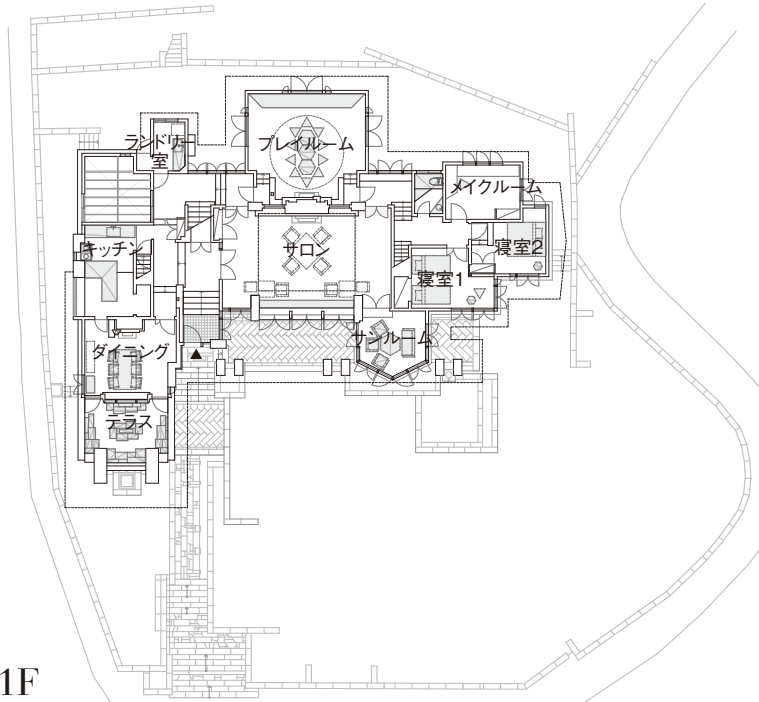
2F



B1



1F



断面図

0 1 2m

1/150



葉山加地邸



建築概要

所在地	神奈川県三浦郡葉山町
主要用途	専用住宅／宿泊施設
設計	遠藤新
改修設計	神谷修平
敷地面積	1129.52㎡
建築面積	219.85㎡
延床面積	364.74㎡
階数	地上2階、地下1階
構造	木造、一部RC造
竣工	1928年

宿泊概要

施設名	葉山加地邸
料金	1泊 268,000円(税込) 2泊 429,000円(税込)
定員	1棟貸し、6名まで
チェックイン	15:00～18:00
チェックアウト	12:00
※宿泊情報は取材時点のものです。	



Endo Arata

遠藤 新

1889年福島県生まれ。1914年東京帝国大学工科大学建築学科(現・東京大学工学部建築学科)卒業。15年明治神宮造営局勤務。17年ライトと出会い、ともに帝国ホテルの設計・建設に従事(チーフアシスタント)。22年遠藤新建築創作所設立。51年逝去。おもな作品=「加地邸」(28)、「笹屋ホテル」(32)、「目白ヶ丘教会」(50)。



Kamiya Shuhei

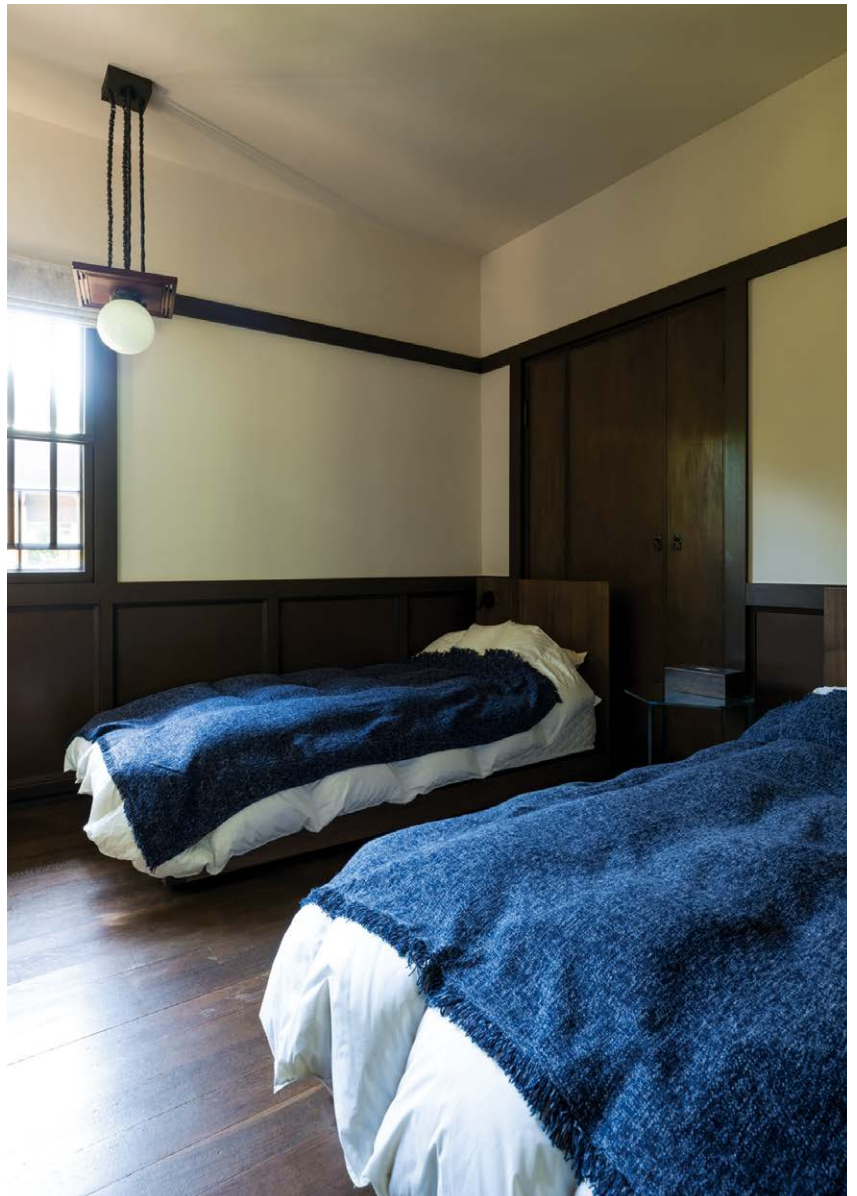
神谷修平

1982年愛知県生まれ。2005年早稲田大学理工学部建築学科卒業。07年同大学理工学部建築学専攻修了。07～16年限研吾建築都市設計事務所勤務。16～17年BJARKE INGELS GROUP勤務。17年カミヤアーキテクト設立。おもな作品=「九段ハウス」(18)、「OHAGI3 FLAGSHIP CAFE」(22)、「HARIO Satellites」(23)。



葉山加地邸の実践から
近代建築の保存・維持・活用の
あり方を考える。

写真上／キッチン。宿泊者の自炊や出張シェフによる調理を想定して改修。下／寝室1はツインルームになっている。ペンダントライトは当時のもの。



作品

設計

スマレアオイハウス

小泉 誠



戦後小住宅の傑作として名高い、増沢洵の「自邸(最小限住居)」をリデザインした「スマレアオイハウス」。規模からは想像もできない、のびやかで広がりのある豊かな住空間を体験するだけでも十分な価値があるが、宿泊でたっぷりある時間を使って、さらにどのようにこの空間と向き合えるだろうか。

2階から正面の障子を見る。障子は4枚すべて壁内に引き込むことができる。



日常の延長線上で、50年代小住宅を味わいなおす

「狭小住宅」という言葉が定着して久しい。時代の要請によって小さくならざるをえなかった、いわゆる「戦後小住宅」とは異なり、現在では予算面とも別に、住宅をあえて好んで小さくつくりたいという人たちが存在する。家はすべからく広くて部屋数が多いほうがいい、という漠然として思考停止したイメージに対し、異なる価値観を先駆的に表明しなおしたのが「スミレアオイハウス」だ。

小住宅ブームの先駆け

「スミレアオイハウス」の原型は、1952年に建築家・増沢洵が設計した「自邸(最小限住居)」である。戦後の切実な住宅不足と、その後の融資可能な建築面積の制限内で快適な住居を考案することは、建築家にとって喫緊の課題であり、そのなかで増沢は1階9坪+2階6坪=延床15坪ながら、戦後小住宅を代表すると評される、豊かな空間を備えた住宅を生み出した。

それから約50年後の99年1月、新宿のリングデザインセンターOZONEで開催された展覧会で、「自邸」の軸組が再現された。この企画を担当していたのが、施主の萩原修さんだ。「自邸」の軸組の美しさに魅せられた萩原さんは、この柱梁を引きとって家をつくることを決意する。建築家は、最初から小泉誠さんに決めていた。萩原さんは、小泉さんにくつつかの展覧会の会場構成を依頼するなかで彼の仕事を信頼し、またその作風から「自邸」をうまくリデザインしてくれる予感があったのだという。こうして土地より先に軸組ありきの家づくりが始まり、萩原さんは土地探し、ローンの



南面外観。広い前庭と、4代目となったウッドデッキ。以前はもっと広いデッキだったが、現在は宿泊客が前庭に駐車できるよう、コンパクトなものに。

先駆的な小住宅として

家づくりを考えるたぐさんの人を迎えつづけた住宅は、宿というかたちでまた開かれていく。

契約、打ち合わせと、日々奔走した。そして、約10カ月後の同年10月、萩原邸は完成する。娘たちの名前から「スミレアオイハウス」と名づけられたこの家で、一家4人の生活がスタートした。

その後「スミレアオイハウス」は、90年代後半から2000年代前半に起こった、一般誌上の建築デザインムーブメントにのって大きな話題を呼ぶ。幾度も取材され、修さん・百合さん夫妻の家づくり体験記はそれぞれ『9坪の家』(廣済堂出版、2000)や『9坪ハウス狂騒曲』(マガジンハウス、2001)といった書籍にまでなった。おふたりのもとには家づくりの相談が連日寄せられ、そのため定期的にオープンハウスも開催し、数え切れない人々がこの家を訪れた。02年には、「スミレアオイハウス」に着想を得て、著名な建築家やデザイナーが設計した「9坪ハウス」を販売するという企画までもが展開された。

住宅から

ゲストハウスへ

竣工から約20年、20年春より「スミレアオイハウス」はゲストハウスとしての道を歩み出した。管理人を務める次女の葵さんが「一時は売却や解体も考えましたが、かつてたぐさんの人がこの家を訪れ、そこ

で新たな出会いや出来事が生まれる光景を見て私たちは育ってきた。だから今度は宿というかたちで、この家を開いていくことにしたんです。そこで、後から設えた子ども部屋は解体し、建具の修繕や畳の張り替えを施して、なるべく竣工時に近い状態に戻して宿とした。小泉さんは「今どきの発想で驚いたけれど、なんとも萩原家らしい解決法だと腑に落ちました」と話す。

「スミレアオイハウス」があるのは、東京都三鷹市。幹線道路の近くだが、自動車の音が届かない静かな住宅街に立つ。やはり、南面の大きな開口と広い前庭が印象的だ。「狭小住宅」といえば、狭い敷地いっぱい建てられたものを想像しがちだ。しかしそもそも「自邸」は、200坪もの敷地にちよこんと建てられたものだった。さすがにそこまではないが、「スミレアオイハウス」も大きくセットバックして配され、前庭は気持ちのよい空間になっている。

庭を通じて玄関から中へ入ると、1階には居間・食堂、台所、畳部屋と水まわり。2階には、収納と心地よい吹抜けに面した板の間。狭小、狭小と繰り返してしまっただが、窮屈さを感じさせない室内ののびやかさは特記に値する。

スケール感を鍛えなおす

さて「スミレアオイハウス」での宿泊から、私たちは何を学ぶことができるだろう。ひとつは、自分のスケール感覚を素直に試すことではないか。蛇足だがあらためて大まかに書いておくと、1間=1818mm、1畳=1間×0・5間、1坪=1間×1間

1階の台所と居間・食堂
を見下ろす。設計者の小
泉誠さんと宿の管理をし
ている萩原葵さん。

Special Feature Stay and Study at Heritage Houses Case Study 04

Sumire
Aoi House
by
Koizumi
Makoto





写真上／畳室壁面のシナベニヤには、白い塗料を混ぜたオイルを塗布している。下／2階の書斎スペースと1階の台所。造り付けのカウンターや収納の納まりも見どころ。

→生活スタイルを考慮して、増沢の「自邸」にはなかった玄関が階段下に設けられている。



Ⅱ 2畳。「スミレアオイハウス」の1階は3間(5454mm)×3間Ⅱ9坪(29・74㎡あるいは18畳)、2階は6坪+吹抜け3坪。延床面積は15坪。
また、かつてつくられた子ども部屋の広さは1坪(2畳) ずつだった(平面図参照)。段ボール製のベッドが1畳分、隣に置かれた机の幅が約0・5間。子どもの頃、友達が自分の個室は6畳だ、8畳だと言いつつなかでは「2畳はちょっと言いづらかった」(笑)と葵さんは振り返る。「でも「待庵」と同じだよ」と、小泉さん。身近な部屋の面

継承された骨格を通して

50年代の小住宅の

豊かな空間を

味わう。

積(畳数)とその体感とは、多くの人に無自覚に刻まれている尺度だ。宿泊の際は測量をして、数値と体感をあらためて照らし合わせてみるのはどうだろう。規模的には、宮脇檀にとつての俵屋旅館ほどは「疲れない」で済むはず。

また重要なことだが、小泉さんは間取り自体は当時の萩原家の暮らしに合わせてリデザインしているが、9坪の床と3坪の吹抜けや、水まわりの規模といった「自邸」の骨格については、敬意を払い忠実に継承している。もちろん「自邸」と「スミレア





畳室から南面の開口を見る。写真のように障子を閉閉すれば、外からの視線を気にすることなく青空を堪能できる。

Special Feature Stay and Study at Heritage Houses Case Study 04

Sumire
Aoi House
by
Koizumi
Makoto

オイハウス」は同じものではないが、具体的に継承可能な数値・寸法から実体化させた骨格と空間を通して、「自邸」の最も根本的な思想にも触れられないだろうか。

建具の ディテールを学ぶ

ふたつめは建具だ。昨今では、壁や建具をなるべく取り扱うことで、広さや空間の連続性を確保する事例も増えている。またオリジナルの建具は、設計の手間もかかり、コストも高額になるので手を出しにくいこともある。しかしやはり狭い空間ほど、洗練された間仕切りの力は大きく発揮される。「スマリアオイハウス」の随所の建具のディテールや納め方は、小泉さんの仕事が見所だ。

建物の「顔」である南面の大窓と障子もそうだ。「玄関や畳部屋の追加といった平面計画以外で、『自邸』との一番の違いがここにあるんです」と小泉さんは言う。「自邸」では窓にブレースを入れているが、「スマリアオイハウス」では耐震壁によってそれが不要となった。加えて、前者では戸袋がないので4枚の窓面のうち半分には必ず障子が残るが、小泉さんは障子を壁の中に引き込んで窓のみの状態にもできるような南面東側一間分の壁に戸袋を設計している。これらの工夫で、ファサードはよりすっきりと開放的になり、調光の幅が広がり、景色や建物の表情も豊かになった。

暮らしの延長線上で

そして最後に。建築空間に限らず、小泉

さんがデザインした家具や、小泉さんが営む「こいずみ道具店」が扱う日用品を住空間で使用する体験ができるのも大きな魅力だ。寸法をシミュレーションし、ショールームや店頭で何度もフィット感を確認したはずの机や椅子が、いざ自宅に設置してみると、大きすぎたりしっくりこなかったりした経験がある人も多いだろう。1階の丸いテーブルやスツールは小泉さんのデザインで、利用してみると、空間とあいまって、食卓の風景やほかの用途への広がりがあり実際に想像できる。葵さんによると、実際に宿泊後にテーブルや椅子のサイズや購入元を尋ねられたことがあるそうだ。また「スマリアオイハウス」には、広さに対してやや多い脚数の椅子がある。いろいろな場所に移動させて座ってみながら、空間と景色、椅子と身体の調和を体感してみるのはどうだろうか。

そもそも「スマリアオイハウス」に置かれた家具や食器が、ホテルの備品とは異なり、空間になじんでいるのは、ほとんどが萩原家が長らく愛用してきたものだからだ。百合さんは著書で、この家の暮らしに合わせて選ぶなかで、必然的に小泉さんのものが増えたしなじんだ、と書いている。「名作建築に宿泊」と聞くと、異次元や非日常をイメージしがちだ。それももちろん素敵な体験ではあるが、「スマリアオイハウス」の宿泊体験には、親しみやすさがある。暮らしの延長線上にあるけれど、日々忙殺されて忘れがちなこと、しかしきつと工夫次第で取り入れられるような心地よさ。そんなものに対する気づきを与えてくれるように思う。

スマレアオイ ハウス



建築概要

所在地	東京都三鷹市
主要用途	専用住宅／宿泊施設
設計	小泉 誠
施工	井端建築
敷地面積	94.07㎡
建築面積	29.74㎡
延床面積	49.57㎡
階数	地上2階
構造	木造
竣工	1999年

宿泊概要

施設名	9坪の宿 スマレアオイハウス
料金	1泊 27,000円(税込)
定員	1棟貸し、 大人4名+子ども2名まで
チェックイン	14:00～18:00
チェックアウト	12:00
※宿泊情報は取材時点のものです。	



Koizumi Makoto

小泉 誠

1960年東京都生まれ。木工技術を習得した後、85～89年デザイナーの原兆英・原成光両氏に師事。90年Koizumi Studio設立。2003年こいずみ道具店を開店。おもな作品=「土気の家」(14)、「丸徳家具店」(16)、「大工の手」[倉庫]プロジェクト(15～18)。



暮らしのなかの
豊かなデザインを
発見する。

写真上／浴室。「自邸」にはなかった脱衣所スペースを設けている。右下／小泉さんがデザインした蚊取り線香入れ。左下／長年愛用されてきたツール類も小泉さんによるもの。



ライトの鉛筆の芯はつねに尖っていなければならなかった。ライトは製図板に向かうと、自らの頭のなかで構想した空間を、あたかもそのなかを歩いているかのように言葉で描写しながら、同時に手で図面を描いていくのである。それは疾風のごとく描かれていくため、鉛筆の芯が折れるたびに、尖った鉛筆が弟子たちから手渡された。ライトの想像力が馳せられている限り、その手を一瞬たりとも止めてはならない。それが彼らの使命であった。

落水荘は、ライトが設計した近代建築の名作であり、その落水荘を設計しているときも弟子は鋭利な芯をつねに用意したにちがいない。以下はそのときの一場面である。

ある朝、施主であるエドガー・カウフマンがミルウォーキーから来所の意を伝える電話が、ライトの設計事務所「タリアセン」に鳴り響いた。タリアセン到着まで残された時間は140分。ライトは頭のみで構想していた「落水荘」のイメージを一気に図面に描き始めた。所員のターフェルによれば、脳裏の奥底に眠る鬱蓄した創造のエネルギーが一気に爆発したかのように低い声でぼそぼそと語りながら1階平面図、2階平面図、断面図、立面図、詳細図を描き始めたという。

正午の少し前、カウフマンが到着すると、ライトは何事もなかったかのように彼を堂々と出迎え、製図室で計画を説明しはじめた。両者が昼食をとるあいだ、ターフェルたちはさらに図面を描きつづけ、昼食後に再びライトは製図室に戻り、初見の図面でカウフマンに落水荘の構想を話しつづけたのである。

タリアセンとは、ライトがウイスコンシン州に開設した設計事務所の名称である。1911年のヨーロッパ周遊からの帰国を機に、都会のシカゴではなく大自然のある場所に住居とスタジオを構えた。使用人による放火と殺人事件（Ⅰ期）や、火災（Ⅱ期）などの幾多の苦難を乗り越えて、現在のタリアセンⅢ（1925年～）の原型ができたが、そこはもはや一般的な設計事務所とはかけ離れたものだった。

このタリアセンには、おもにライトのふたつの考えが体現されている。ひとつは真の建築家を育成しようと試みたライトの教育者としての理念と、もうひとつは設計事務所の経営者としての思想である。

当時アメリカで流行していたヨーロッパ流のボザール教育とは異なる、真の建築のあり方を教示する場をつくりたいと考え、自然に触れることから建築を思索する場としてタリアセン・フェローシップを興した。そのため、ターフェルらのフェローシップには製図室でのドラフト・マンとしての仕事に加えて、製図室の外での活動が余儀なくされた。農場に出て食材を育て生命の尊さを学び、職人の指導に習い樹木を伐り、岩を切り出し、自然素材の扱い方を習得し、結果的にタリアセンを増築しつづけることで、実体験としての建築を習得するのである。土曜日の夜はライトが好んだ音楽コンサートが催され、フェローシップがピアノやバイオリンを奏でることもあった。日曜日にはピクニックや映画鑑賞が行われた。ライトはフェローシップにさまざまな話を語りつづけた。製図室では、図面の修正を厳しく指示する一方で、製図室の外では建築の本質や

ライトの手を
止めないように、
弟子たちは
芯の尖った鉛筆を
つねに用意した。

自然の豊かさについて語り、結果的にそれらが最も価値のある「授業」だったにちがいない。

他方で、タリアセン・フェローシップのシステムは、事務所の運営の視点から誕生したものともいえる。ライトは、度重なる再建のため膨大な借金を抱え、将来に取得する設計料の収入を

株として売ることによって返済を試みた。そして、フェローシップからの授業料も資金源としていたことは想像に難くない。もちろん、授業料を払いながら設計をさせられる……と感じた者もいた。しかし、所員がいる限り事務所が存続するシステムは、希有な事務所の経営法であるといえるだろう。彼らは仕事をしながら学習し、1年に\$600（\$650の記述もある）を納める必要があったのだ（ちなみにニューヨーク大学の学費は\$450なのに！）。彼らは「フェローシップ」と呼ばれ、ライトから建築を学びたいと思った学生が世界中から集まってきた。

そして、タリアセンの冬は厳しすぎた。そこでライトは気候が温暖なアリゾナにタリアセン・ウェストを開設することにした。夏はウイスコンシンで冬はアリゾナと、事務所全員でアメリカ横断を繰り返すことにしたのである。季節によって快適に働くことができる場所を選択することこそ、最も自然なことであり、場所にとらわれない働き方が現代的にもみえるのは興味深い。



↑ 落水荘。1939年撮影（写真／Bill Hedrich）。

フランク・ロイド・ライト
Frank Lloyd Wright

1867年アメリカ合衆国のウイスコンシン州リッチランド・センターにて生まれる。87年シカゴのシルスビー事務所に入所。88年アドラー&サリヴァン事務所。93年に独立しシカゴ市内のシラービル（設計：サリヴァン）の一室に事務所を開設。1897年にオークパークの自宅の2Fを事務所とし、1909年に閉所してヨーロッパ周遊へ。11年に帰国しウイスコンシン州スプリング・グリーンにタリアセンIを設計。14年と25年に火災で焼失した部分をタリアセンIIおよびIIIとして再建する。以後の活動拠点とする。37年には気候が温暖なアリゾナ州にタリアセン・ウェストが竣工。59年逝去。

やまむら・たけし／1984年山形県生まれ。2006年早稲田大学理工学部建築学科卒業。06年バルセロナ建築大学留学。09年早稲田大学大学院理工学研究科建築学専攻修士課程修了。12年同大学院博士後期課程修了。12～15年ドミニク・ペロー・アルシテクチュール勤務。16年YSLA Architects設立。早稲田大学専任講師などを経て、20年東京工芸大学准教授。博士（建築学）、一級建築士。

古写真で
みる
建築家の
アトリエ

第3回

古写真を発掘し、
昔の建築家の
アトリエをのぞく。
この場所で、
名作が生まれた。

仕事をしながら 授業料も払う タリアセンの経営術

文／山村 健
Yamamura Takeshi



Photo by Hedrich Blessing Collection / Chicago History Museum / Getty Images

↑フェローシップに囲まれるライト。たくさんの鉛筆が用意されているのがわかる。

フランク・ロイド・ライト

Frank Lloyd Wright



↓フェローシップの図面をのぞき込むライト。



↑タリアセンの前のライト。タリアセンとはウェールズ語で「輝ける額」を意味する。

→屋外でお茶を楽しむことができるタリアセン。



©2022 Frank Lloyd Wright Foundation / ARS NY / JASPAR, Tokyo E4954 (pp.42-43の特記なき写真)



W

前代未聞、

構造

守り 字形

1

その気になって眺めると、W字形の構造体が見えてくる。

辻別邸 設計／中原暢子

Nakahara Nobuko × Fujimori Terunobu



現代 住宅 併走

第五十四回

連載

文／藤森照信

Text by Fujimori Terunobu
Photographs by Fugo Hitoshi

写真／普後 均



現代住宅 併走

Nakahara
Nobuko
×
Fujimori
Terunobu

2

2/かつて軽井沢の木立は小さく、建物もはつきり見えた。3/テラスから道路を見る。

3

林

・山田・中原設計同人、
という珍しい名の設計
組織を覚えておられる

だろうか。3人とも女性で、日本における初期の女性建築家集団にちがいないし、林雅子、山田初江、中原暢子と今でもフルネームを書くことができるほど私が建築を志した半世紀前には印象深かったが、林さんを除いて会ったことはないし、どんな作品を手がけたのか記憶もない。

よって、調べようと思ったこともないが、過日、東京家政学院大学准教授の深石圭子さんが工学院大学に提出した博士論文の審査をしたとき、初めて中原暢子と直面し、関心が湧いた。経歴の異例と最初期作のインパクトはただごとではない。

昭和4（1929）年、埼玉県に生まれ、昭和23（48）年、東京家政専門学校（現・東京家政学院大学）保健科を卒業、労働省婦人少年局に入り、そこで読んだ濱口ミホの『日本住宅の封建性』（1949年刊／相模書房）に人生を変えるほどの衝撃を受け、ただちに人生の方向を建築へと舵を切り、武蔵工業大学（現・東京都市大学）を卒業後、池辺陽と広瀬鎌二の門下生を経て、昭和33（58）年、林・山田・中原設計同人の設立に至る。

ここまでの経歴は、戦後モダニズムの王道を、コルビュジエ

派（前川國男、丹下健三など）とはやや離れた筋で歩んだことになる。

コルビュジエ派は国や公共の記念碑的建築を本務とするが、『日本住宅の封建性』は名のおり住宅をテーマとしているし、池辺も広瀬も住宅を主要な領分として戦後モダニズムをリードしている。

ふたりとも住宅を主要な領分としていたが、こと技術については、とりわけ構造技術については、その生産を含め世界の最先端を目指し、住宅としては大げさすぎる構造でも断固遂行し、住みやすい家なんて発想はハナから欠いていた。

そんなふたりに学んだ中原は、ひとつの鉄筋コンクリート寺院とひとつの木造建築で戦後モダニズム建築界にデビューする。

昭和37（62）年に完成したコンクリート寺院は長覚院といい、当時最先端のHPシェル構造を駆使し、HPシエルの曲面屋根と屋根を支える4つの支柱を構造力学にそってそのまま表現するという、今見てもおそろしからぬ激しい建築であった。

長覚院の後昭和39（64）年に登場した木造住宅は〈辻別邸〉といい、長覚院ほど普通の人には印象深くないかもしれないが、専門的に見ると負けず劣らずの過激な構造に挑んでいる。

構造体を露わに表現として押し出すモダニズムを構造表現主



4

4/2階床は「挟み梁」のように見えるが違う。5/屋根を支えるのが「挟み梁」。

5



義といい、戦後の日本のモダニズムは、コンクリート構造を打放して仕上げることに意を注ぎ、構造表現主義の花咲く世界屈指の国となり、その代表として丹下健三を生んでいる。

中原の長覚院も（辻別邸）もそうした日本の戦後モダニズムの構造表現主義作品にちがいないが、木造の（辻別邸）の場合、どこがそうなのか確かめるべく、軽井沢の別荘地を訪れた。

木立のなかで待つていてくれた辻氏の孫の裕子さんご夫妻に案内してもらい敷地を歩いて、過剰な構造表現主義がまだ健在かどうかをまず確かめる。

うれしい、健在だった。木立に囲まれたなかで離れたところから眺めると、ただのピロティというか高床式別荘に見えるが、近づいて確かめると、建物の骨格をなす丸太柱が大きく傾いて三角形をつくっている。W字形の中央を大きく突き上げ、そこに2枚の水平面をのせた形、といえはいいか。

当時、木造住宅でもあれこれ試みられていたピロティは、例外なく垂直の柱で支えられ、垂直の柱と水平の梁による枠組構造をとっていたのに、W字形などという前代未聞の構造形式を採用したのは、中原の前衛意識がそれだけ強かったからにちがいない。日本住宅の封建性^レを日本住宅の木造枠組構造のなかにも看取していたのか。

W字形の丸太に水平の床を張るためには水平の梁を取り付けなければならぬが、四角い梁材を斜めに走る丸太柱に接続するのは簡単ではない。で、どうしたのかを確かめると、W字形の左右のV字にかかる梁は合わせ梁にしているのに、中央の凸部にかかる梁は小さな梁材を丸太の中心部に差し込んでいる。接合方法が異なり、それが視覚的に不自然さを生んでいる。

細かいことかもしれないが、構造表現主義の実現の難しさを思った。全体はすばらしいが、細部でつまずく。細部でつまずかずには構造表現主義を実現するには、すぐれた構道家との協働と、経験ある大工の知恵が欠かせない。

日 本とヨーロッパの伝統的木構造は、階と階のあいだ、階と屋根のあいだで柱をいったん切って柱の上に梁をかけ通し、また柱を立てて階をのせ、階の上に屋根構造をのせるという積層性の特徴とし、いわゆる通し柱への執着をもたないが、戦後のモダニストは、そこに構造上の筋の通らなさを認め、通し柱と水平材（梁）の接合部を合理的かつ強化するため、柱を両側から梁（2枚の板）で挟む、「挟み梁」という前例のない策を編み出す。最初に挑んだのはレーモンドで、彼は日本の伝統の、杉丸太の柱の両側に杉の半割材の「挟み梁」



6



7

6／広々とした室内。7／2階は屋根裏部屋。8／テラスの手すりは「挟み梁」形式。

8



9

「日本住宅の封建性」を打ち破った明るくオープンな空間。



を縛りつける足場技術から想を得ている。

当

時、レーモンドに始まるこのやり方はモダニストに強い印象を与えたらしく、戦後の木造モダニズム住宅を代表する「丹下健三自邸」(53)において、丹下は、梁は1本の角柱で、通し柱のほう

を「挟み柱」とする奇策を試みて表現上の成功を得ているが、揺れが大きくて大変だったという。

施主について述べておこう。辻二郎は、かの理化学研究所出身で、ガス計測計器の研究をし、後に理研計器株式会社の経営をした。発明家出身だから、珍し

いW字形の構造にのっけてくれたのだろう。

最

後に中原暢子のその後に触れておこう。深石論文によると、過剰な構造表現主義によってデビューした後、方向を変え、農村の住宅改良に取り組み、さらに和風住宅にも心引かれて「住みやす

い家」へと回帰し、ついには茶の湯に目覚め、自邸を「茶室のある家」(85)と名づけ、茶三昧の日々を送っているが、女性建築家の確立という初心を失うことはなく、2002年には国際女性建築家会議日本支部の名誉会長に就き、08年、79歳で亡くなった。



近づくとも、森のなかに変わった別荘が見れる。

辻別邸

建築概要	
所在地	長野県北佐久郡軽井沢町
主要用途	別荘
設計	中原暢子
施工	不明
敷地面積	933.388㎡
建築面積	85.86㎡
延床面積	91.53㎡
階数	2階
構造	木造
竣工年	1964年
図面提供	東京家政学院大学

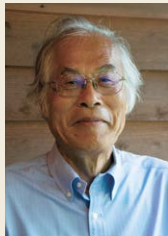
Nakahara Nobuko

中原暢子

1929年埼玉県生まれ。48年東京家政専門学校(現・東京家政学院大学)、52年武蔵工業大学(現・東京都市大学)短期大学部建築科卒業。58年3月まで東京大学生産技術研究所の池辺陽研究室技術研究生、広瀬鎌二建築技術研究所を経て、6月に林・山田・中原設計同人設立。85年東京家政学院大学家政学部住居学科助教授、88年教授。国際女性建築家会議日本支部初代会長を務め、日本文化に造詣の深い茶人建築家と称される。おもな作品に「長覚院」(62)、「K氏別邸」(64)、「扇形の家」(68)、「M氏別邸」(72)、「茶室のある家」(85)など。2008年逝去。

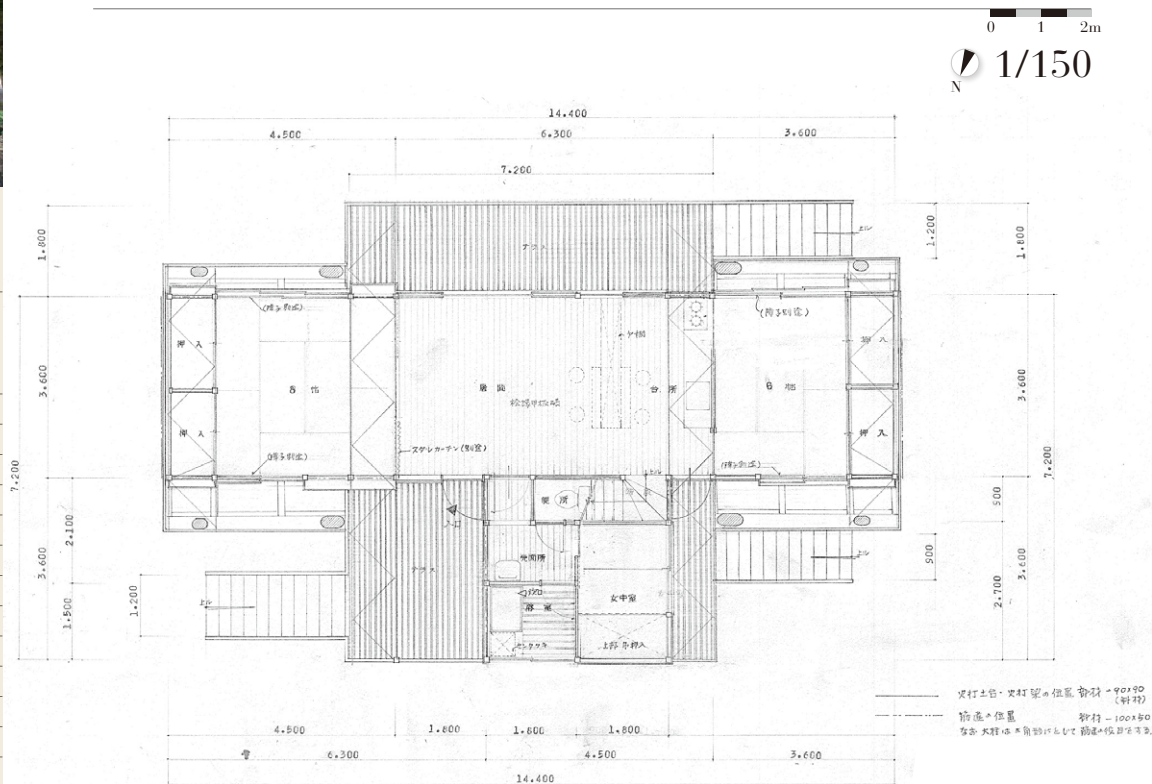
藤森照信

建築家。建築史家。東京大学名誉教授。東京都江戸東京博物館館長。工学院大学特任教授。おもな受賞＝「明治の東京計画」(岩波書店)で毎日出版文化賞、『建築探偵の冒険東京篇』(筑摩書房)で日本デザイン文化賞・サントリー学芸賞、建築作品「赤瀬川原平邸(ニラハウス)」(1997)で日本芸術大賞、「熊本県立農業大学校学生寮」(2000)で日本建築学会作品賞、「ラコリーナ近江八幡草屋根」(15)で日本芸術院賞。

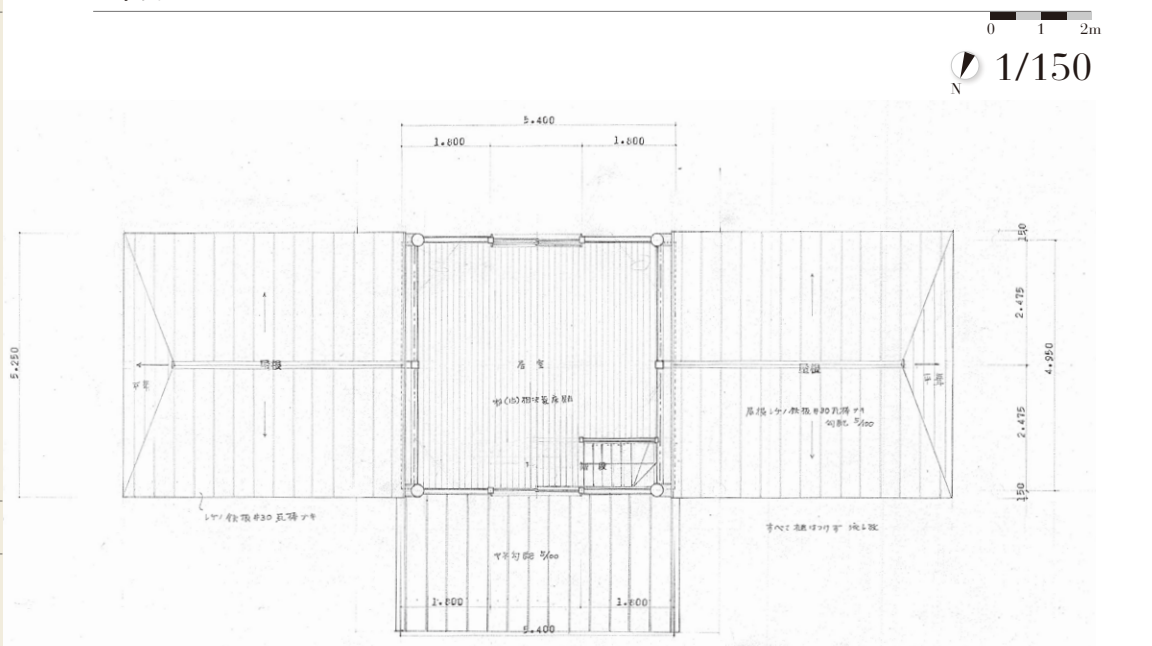


Fujimori Terunobu

1階



2階



併住現 走宅代

Nakahara
Nobuko
×
Fujimori
Terunobu

九段会館テラス

KUDAN-KAIKAN TERRACE

文化財に最新鋭のオフィスを融合

登録有形文化財の旧九段会館を一部保存しながら、おもに最新鋭のオフィスからなる新築部分と融合させた「九段会館テラス」が2022年10月に開業した。建物は地下3階、地上17階建てで、宴会場、シェアオフィス、クリニックモール、飲食店、屋上庭園などを備え、施設の一部は一般客にも開放する。

九段会館は1934年に軍人会館として競技設計1等案をもとに建てられた建築で、帝冠様式の外観は長く九段下の景観の象徴だった。実施設計は川元良一、監修はコンペの審査員でもあった伊東忠太。当時は設計案の当選者が実施設計を行わないのが通例で、外観や内装に見ら

れるアール・デコ調の意匠は、川元のアレンジによるものだ。

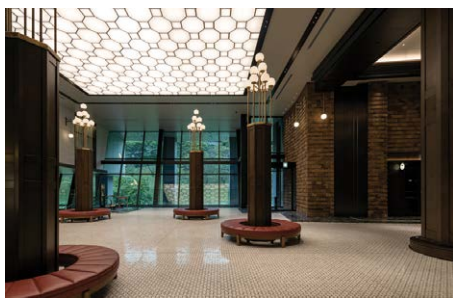
戦後はGHQの接収後、結婚式場・宴会場・宿泊施設として使用されてきたが、東日本大震災による天井崩落事故により閉館。2017年、財務省関東財務局が実施した一般競争入札を経て、東急不動産と鹿島建設が出資する合同会社が再生計画を進めてきた。設計は鹿島・梓設計・工事監理業務共同企業体、施工は鹿島建設。

保存部分と新築部分の境目を感ぜさせないように

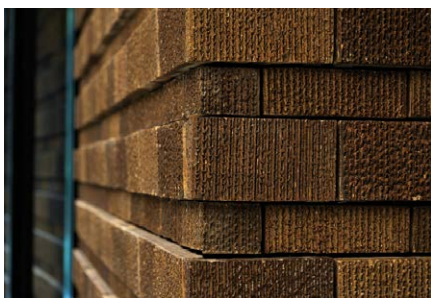
旧九段会館は北側と東側の2面をL字状に保存し、お濠に面した南西側を解体して新築部分を建設した。歴史的建造物のファサードだけを保存し、背後に



外観全景。低層の保存部分と高層の新築部分が並び立つ。



保存部分と新築部分の境目となる1階プラザホール。



保存されたスクラッチタイル。

文化財の雰囲気を感じさせるトイレ

取材文／大山直美 写真／川辺明伸

高層ビルを新築する例が多いなか、ここではL字状のワンスパンの保存がコンペ時の与件であったことから、旧九段会館部分である保存部分は「免震レトロフィット工法」を採用し、耐震性を向上させ、再利用した外装のスクラッチタイルは1枚1枚アンカーピンで留める徹底ぶりだ。

うわべだけの保存ではないという姿勢は、内部にも如実に表れている。新旧の境目は構造上は切り離されているが、保存部分の正面玄関と、奥に続く新築部分の「プラザ」と呼ばれる吹き抜け空間は、レトロモダンなデザインで一体化。新旧の境目に気づく人はほとんどいないだろう。内装材や照明器具を吟味し、細部まで丁寧な設計・施工した努力が伝わってくる。「ここまでは古い建築の保存部分で、ここからは新築と割り

切っている例は多いですが、今回はゆるやかにデザインをつなげたい、しかも保存部分を美術館のように見せるだけではなく、ちゃんと使える建物にしてほしいとお願いました」と話すのは、東急不動産の伊藤悠太さん。設計を手がけた鹿島建設の栗間敬之さんも「新旧を対比させ、新築部分をはっきり現代に振ったほうがデザインはしやすいのですが、いろいろ意見を出し合った結果、両者をなじませるといふ、より難易度の高い方向性を選択しました」と振り返る。こうした考え方を象徴するのが、インテリアデザインを担当したイリアの榊未央さんの言葉だ。「保存部分は現代に生きる私たちにとっては、とても非日常的な場です。その非日常感を適切に感ぜせないまま、いかに『夢から醒めないように』つくるかを非常に大切にしました」

B1F客用トイレ



女性トイレ

↓ 男性トイレも文化財の雰囲気を意識してつくられている。

↓ 車いす使用者やオストメイトなど、さまざまな身体状況に配慮。

↓ 男性・女性トイレとは異なり、どんな性別の人でも使用できる個室。

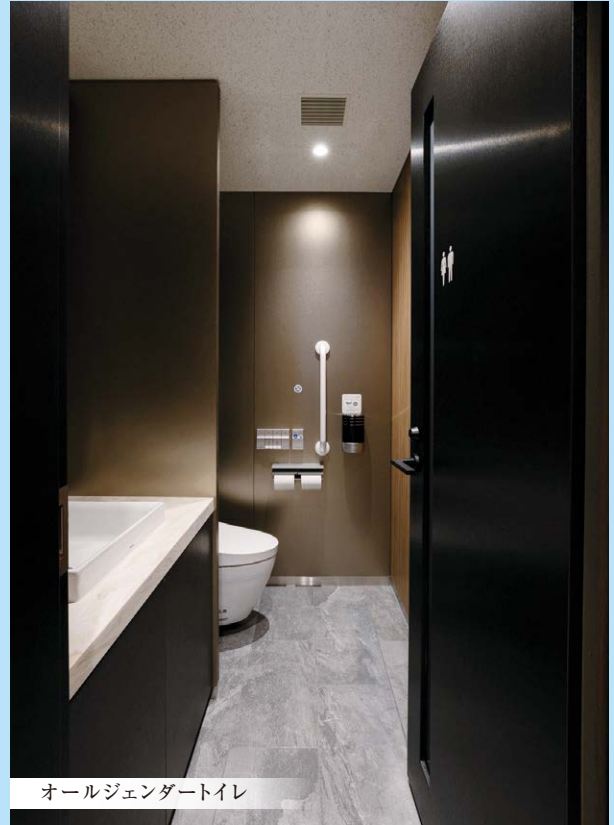
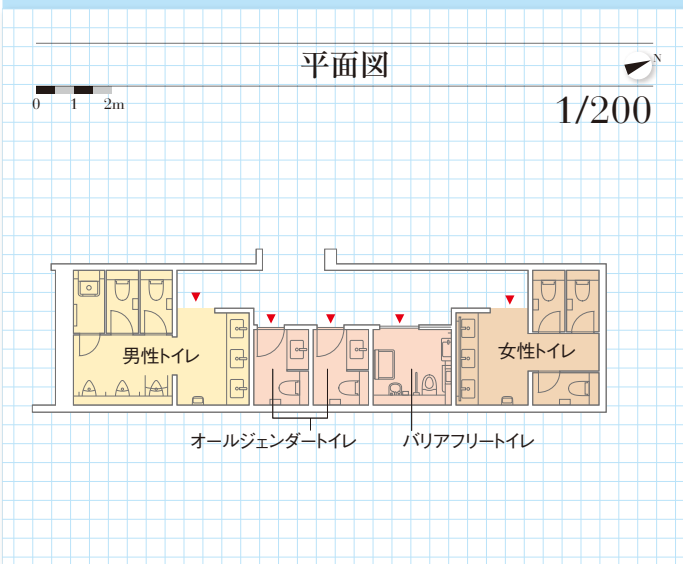
↑ 女性トイレの洗面台。照明やタイルは文化財の雰囲気を意識したもの。



男性トイレ



バリアフリートイレ



オールジェンダートイレ

女性トイレ

手前に洗面台、奥にパウダーコーナー。さらに奥にフィッティングルームがある。



フィッティングルーム



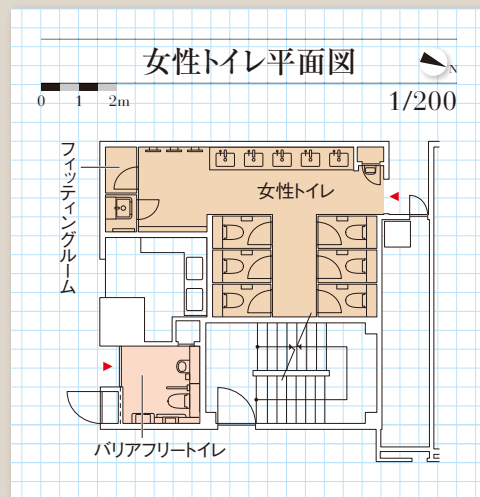
扉付きの個室。鏡があり、パウダーコーナーとしても使用できる。



鏡のエッジは丸く、裏に間接照明が仕込まれている。



鏡



夢から醒めないように

夢から醒めないデザインは、新築部分の共用部においても貫かれており、トイレも旧九段会館のクラシカルさとモダンなデザインがほどよく溶け合ったインテリアで統一されている。

今回見学したのは、オフィス基準階である16階、そして共用部の2階、地下1階の3カ所のトイレ。

まず基準階の女性トイレは、調光付きの「女優ミラー」が目を引くパウダーコーナーのあるシックな空間。水栓金具は右脇のセンサーに手をかざすと湯水が切り替えられる非接触方式で、一角にはフィッティングルームや小物入れ用のロッカーも備える。伊藤さんによれば、女優ミラー、湯水切り替え水栓、フィッティングルーム、小物入れは、近年、東急不動産が開発するオフィスビルのトイレでは、ほぼ標準仕様とのこと。トイレが女性の視点でつくられているかどうかは、オフィス選びの際、重要なポイントになると語る。

一方、男性トイレは、「織部色」と呼ばれる旧九段会館の屋根瓦の緑に通じるタイルで囲った個別の鏡や、スクラッチタイルを思わせる白い壁面タイルがなんともレトロモダンな空間。女性

基準階オフィストイレ

男性トイレ



個室



保存部分に合わせたスクラッチタイル風の仕上げ。各トイレでさまざまなタイルが使われている。

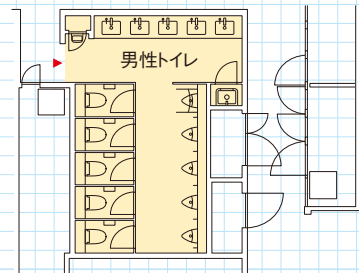


床掃除しやすい、壁掛けタイプの便器。

男性トイレ平面図

0 1 2m

1/200



飲食店のある地下1階のトイレは、オールジェンダー仕様。両端に男女トイレを配し、中央に洗面台を備えた個室を2ブース、車いすやオストメイト対応のバリアフリートイレを1ブース設けた。トイレの隣には「礼拝室」も完備。入居企業のダイ

免震層に配置されたトイレ

「レトロとモダンのあいだで偽物にならないように、何かを引用しながらも現代に美しく見えるものを選んでいきます。レトロに傾きすぎて重たい印象にならないよう、清潔感も意識しました」と柳さん。2〜3枚のタイル見本を見せても、イメージが伝わらないため、伊藤さんや栗間さんも一緒に複数のメーカーのショールームをまわって確認したという。

トイレに見劣りしない、趣の異なるデザインに、並々ならぬ力の入れようが感じられる。次に、2階のトイレは広い宴会場のそばにあり、大勢の利用が想定されることから、ブース数を多めに確保。内装はこちらも男女で異なり、とくにパウダールームの壁面タイルが美しい。男性トイレはゆらぎのある水面のようなデザイン、女性トイレはどことなくオール・デコ調の幾何学的なデザインだ。「レトロとモダンのあいだで偽物にならないように、何かを引用しながらも現代に美しく見えるものを選んでいきます。レトロに傾きすぎて重たい印象にならないよう、清潔感も意識しました」と柳さん。2〜3枚のタイル見本を見せても、イメージが伝わらないため、伊藤さんや栗間さんも一緒に複数のメーカーのショールームをまわって確認したという。

2階客用トイレ



男性トイレ



宴会場のあるフロアのため、多くの個室が並んでいる。



女性トイレの化粧台には、大きな1枚の鏡が設置されている。



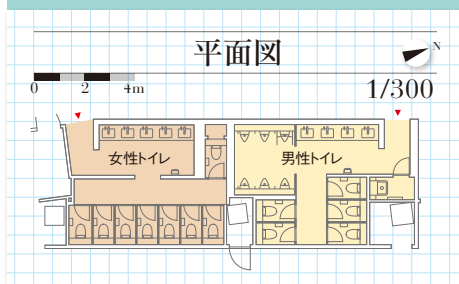
淡い水色のタイルが用いられている。間接照明が壁面を照らしている。



女性トイレ



女性トイレ洗面台



パーシテイ経営を支援すると同時に、全体のコンセプトであるワーカールの健康推進に沿って「心の健康」にも配慮した結果だと伊藤さんは言う。

ユニークなのは、このトイレがある位置だ。保存部分では地下1階の柱に免震装置を設置する「柱頭部免震」を選択しており、じつはトイレはその免震層のスペースを活用してつくられている。当初は別の場所にトイレを配していたが、着工後、現場の状況を見て、十分有効利用できることがわかり、検討を始めたそうだ。「基準階より天井が低いなど多くの制約があり、現場にも苦勞をかけたりますが、なんとか実現することができました。おそらく免震層につくられた初めてのトイレではないでしょうか」と栗間さんは笑う。

ちなみに、「九段会館テラス」の敷地は定期借地権方式で国から借りているため、70年後には更地にして返還することになるが、伊藤さんも栗間さんも、70年以降も十分存続し得る建築として計画した、と自信をのぞかせる。「どこかのタイミングで国の重要文化財に指定されれば、保存の動きが出てくる可能性はあると思います」と伊藤さん。70年といわず、100年後も残る建築であることを願いたい。

九段会館 テラス

KUDAN-KAIKAN
TERRACE



正面外観。

建築概要

所在地	東京都千代田区九段南1丁目5番1他
事業主	合同会社ノーヴェグランデ ※東急不動産、鹿島建設が 本プロジェクトのために出資する事業会社
主要用途	事務所、店舗、集会場、駐車場など
設計	鹿島・梓 設計・工事監理業務共同企業体
施工	鹿島建設
敷地面積	約8,675㎡
建築面積	5,123.02㎡
延床面積	68,036.35㎡
階数	地下3階、地上17階
高さ	約74.9m
構造	鉄骨造(CFT造)、鉄筋コンクリート造、 鉄骨鉄筋コンクリート造
設計期間	2017年10月～2019年7月
施工期間	2018年5月～2022年7月(解体期間を含む)

おもなTOTO使用機器

● 男性トイレ

腰掛式フチなしトルネード便器(壁掛式)・
フラッシュタンク式 CS530P
ウォシュレットPS2 TCF5524A
壁掛壁排水自動洗浄小便器 US900R
ベッセル式洗面器 LS716
台付自動水栓 TLP01S01J

● 女性トイレ

腰掛式フチなしトルネード便器(壁掛式)・
フラッシュタンク式 CS530P
ウォシュレットPS2 TCF5524A
ベッセル式洗面器 LS716
台付自動水栓 TLP01S01J

● バリアフリートイレ

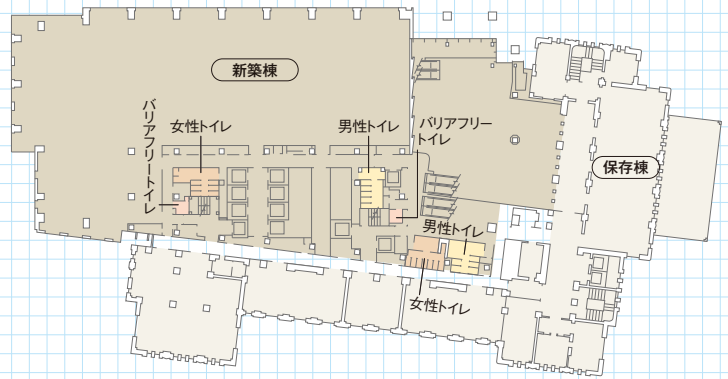
多機能ユニット
ウォシュレットPS2AK TCF554AP

● オールジェンダートイレ(B1F)

腰掛式フチなしトルネード便器(壁掛式)・
フラッシュタンク式 CS530P
ウォシュレットPS2 TCF5524A
ベッセル式洗面器 LS716
台付自動水栓 TLP01S01J

2階平面図

0 10 20m 1/1,200



Sakaki Mio

株式会社イリア
インテリアデザイン部
グループリーダー

榊 未央



Kurima Takayuki

鹿島建設株式会社
建築設計本部
建築設計統括グループ
チーフアーキテクト

栗間 敬之



Ito Yuta

東急不動産株式会社
都市事業ユニット
開発企画本部
開発第一部
事業企画グループ
課長補佐

伊藤 悠太

会期／

2022年10月21日(金)
～2023年3月19日(日)

開館時間：11:00～18:00

入場料：無料

休館日：月曜日・祝日・年末年始休暇

[2022年12月26日(月)

～2023年1月9日(月)]

*ただし、2023年2月11日(土・祝)は開館

How is Life?

地球と生きるためのデザイン

気候変動や感染症等による世界情勢の変化など、
さまざまな課題に直面する時代において建築に何ができるのか？

TOTOギャラリー・間の運営委員の議論から生まれた企画展

「How is Life? ——地球と生きるためのデザイン」を開催中。

アシスタントキュレーターから見た展覧会を紐解くキーワードとともに、
本展で取り上げるプロジェクトの一部を紹介します。

キュレーター：

塚本由晴、千葉学、セン・クアン、田根剛

アシスタントキュレーター：

平尾しえな、

アナスタシア・ゴリオミティ

(東京工業大学大学院塚本由晴研究室)

展示デザイン：

アリソン理恵+青木廉(ARA)、

飯田将平+下岡由季+佐々木晴(ido)

展覧会を紐解く4つの視点 農、道具、診断、当事者性

企画展「How is Life?」はTOTO
ギャラリー・間の運営委員である塚
本由晴、千葉学、セン・クアン、田
根剛の4名がキュレーターを務める。
本展に関する議論はコロナ禍の20
20年秋から2年余におよび、22年
3月にはふたりのアシスタントキュ
レーターと展示デザインチームが加
わり、準備が本格化していった。

「How is Life?」展覧会タイトルは
キュレーターチームからの問いかけ
である。21世紀に生きる私たちは豊
かな暮らしを享受する一方で、気候
変動をはじめさまざまな課題に直面
する。私たちを取り巻くあらゆる想
定が覆されるなか、建築は何ができ
るだろうか？ 本展では「私たちの
暮らし」を軸足に、あらゆる分野に
目を向け、われわれを取り囲む障壁
に小さな穴をあけようとする萌芽を
世界中から紹介する。

4名のキュレーターの方針や内容
を決定するのに膨大な話し合いが行
われた。22年5月、塚本が活動のフ
ィールドとして足繁く通い、展示プ
ロジェクトのひとつでもある千葉県
鴨川市釜沼の「古民家したさん」で
行われた合宿をはじめ、その後も対
面やオンラインで議論を重ねるなか
でつかんだキーワードとともに、21

点の出版プロジェクトのうち一部を
紹介したい。

農的な都市：「Capital Agricole」
にて発表されたヤン・ケビ氏による
色鮮やかなドローイングは、農が溢
れる明日の都市を描く。パリは都市
農が盛んで、高効率化を第一とする
農村部における従来の農「業」用の
大農園ではなく、自給自足やコミュ
ニティ形成を目的とした小規模農園
が次々と生まれている。

資源と道具、連関…中庭には実際
に稲藁で茅葺の壁を施工した。屋根
材のイメージが強いが、工夫すれば
壁や軒裏など幅広く用いることがで
きる。用いた稲藁は東工大塚本研が
釜沼で育てたものだ。「Tool Shed」
には茅葺をはじめ、4つのプロジェ
クトで用いられる道具が並ぶ。資源
が実際に活用されるあいだにはいく
つもの道具、それを扱う人が連関す
る。道具の展示が連関への想像力の
起点となることを期待している。

都市を診断する…東大千葉研+千
葉学建築計画事務所による「Bicycle
Urbanism」では自転車ユーザーの視
点から都市を診断し、自動車と鉄道
を中心に計画されてきた東京で実現
可能な提案を行う。チューリッヒで
はSNS「Bikeable」を通じて市民

が道路上の問題点を指摘し、行政が
それに応えて改善を行っている。ト
ップダウン型で行われてきた都市計
画に対し、私たち自身が都市を診断
する目をもつこと、それが実際の対
処に反映される仕組みを整えていく
必要がある。

障壁を壊す当事者性…ある問題に
対してそれを自分の問題として捉え
られるか。「当事者性」をもつかど
うかで暮らしの組み立て方が大きく
変わる。たとえば「神水公衆浴場」
は熊本震災とその後断水の経験をし
きつかけに自宅の風呂を公共浴場と
して地域に拡張している。非常時へ
の備えを行政の仕事と突き放さずに、
自分たちの暮らしの延長線上に組み
込むことで、結果的に近隣との紐帯
も生み出した事例である。

展覧会では「How is Life?」という
問いに答えている現時点での事例を
紹介したにすぎず、これを皮切りに
議論はこれからも続いていくだろう。
私たちの暮らしについて、一人ひと
りが議論に加わるつもりで展覧会を
楽しんでもらいたいとチーム一同願
っている。

文／平尾しえな
東京工業大学大学院塚本由晴研究室、
本展アシスタントキュレーター

Next Exhibition
at
TOTO
GALLERY・MA

次回
予告

TOTOギャラリー・間
ドットアーキテツ展

ドットアーキテツは家成俊勝、赤代武志により2004年共同設立、大阪・北加賀屋を拠点に活動しています。建築設計だけに留まらず、現場施工、アートプロジェクト、さまざまな企画にもかかわっています。彼らの設計思想を代表作や最新プロジェクトとともにご紹介します。詳細はTOTOギャラリー・間ウェブサイトでお知らせいたします。

2023年5月18日～8月6日



TOTOギャラリー・間

所在地

東京都港区南青山1-24-3

TOTO乃木坂ビル3F

電話／03(3402)1010

ファクス／03(3423)4085

開館時間／11:00～18:00

休館日／月曜日・祝日、

夏期休暇、年末年始、展示替え期間

入場料／無料

アクセス

●東京メトロ千代田線

「乃木坂」駅下車 3番出口徒歩1分

●都営地下鉄大江戸線

「六本木」駅下車 8番出口徒歩6分

●東京メトロ日比谷線

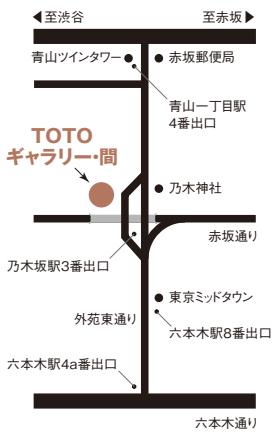
「六本木」駅下車 4a番出口徒歩7分

●東京メトロ銀座線・

半蔵門線、都営地下鉄大江戸線

「青山一丁目」駅下車

4番出口徒歩7分



TOTO GALLERY・MA

<https://jp.toto.com/gallerma>

キュレーター

©Anna Nagai

塚本由晴

Yoshiharu Tsukamoto

建築家[アトリエ・ワン]、東京工業大学大学院教授

千葉 学

Manabu Chiba

建築家[千葉学建築計画事務所]、東京大学大学院教授

セン・クアン

Seng Kuan

建築史家、東京大学国際建築教育拠点特任教授、米ハーバード大学デザイン大学院講師

田根 剛

Tsuyoshi Tane

建築家[Atelier Tsuyoshi Tane Architects]



上段左より、塚本由晴、千葉学。下段左より、センクワン、田根剛。



©Nacása & Partners Inc.

GALLERY 1展示風景。
中央「Tool Shed」に
4つのプロジェクト
(都市林業、小さな地球、
茅葺普請、石積み学校)の
道具が並ぶ。



©Nacása & Partners

GALLERY 2展示風景。
左手前「Bikeable」。
中央、奥「Bicycle Urbanism」。



2022年5月「古民家したさん」での合宿の様子。

©Anna Nagai



「Capital Agricole」から、
アーティストのヤン・ケビ氏のドローイングを展示。

©Nacása & Partners Inc.

TOTOからのお知らせページです。
イベント、新商品、最新情報など知っておいていただくと、
お役に立つ情報を心がけています。
あわせてご注目ください。

News 2

ウォシュレット 累計出荷台数 6,000万台突破

ウォシュレット(*)が2022年8月に累計出荷台数6,000万台を突破しました。1980年6月の販売開始以来、住宅だけでなくさまざまなパブリック施設にも採用されてきました。ここ数年は海外市場での伸長が大きく、高級

ホテルなどのパブリック空間に採用されています。加えて、中国、米国などの需要の大きな市場では住宅向けにも導入が広がっています。

*ウォシュレットはTOTO株式会社の登録商標です。



News 4

TOTO 公式Instagramの ご紹介

2021年9月に「TOTO公式Instagram」を開設し、水まわりのお掃除の仕方やリフォーム方法などの「お役立ち情報」、暮らし方の提案や事例などの「理想の暮らし」、商品の機能や特長を紹介する「商品情報」など、暮らしを豊かにする情報を投稿しています。また、ショールームや商品について、動画(リール投稿)で紹介しています。ぜひフォローやチェックをしてください。



News 1

TOTOギャラリー・間 北九州巡回展 末光弘和+末光陽子 / SUEP.展 Harvest in Architecture 自然を受け入れるかたち

TOTOギャラリー・間は、TOTOミュージアム(福岡県北九州市)での巡回展として、地球環境をテーマに取り組む建築ユニット、末光弘和+末光陽子 / SUEP.(スエップ)の展覧会「Harvest in Architecture 自然を受け入れるかたち」を開催します。「Harvest in Architecture」とは、自然の恵みを持続的に受け入れ、地球とともに生きるための建築の姿を取り戻そうとする概念です。「Harvest」とは、カラフル(多様)であり、ハピネス(喜び)であり、エネルギー(活力)です。展覧会では地球と建築とのつながりを考えたプロジェクトをとおして、自然の循環を促すかたちを展示します。



展覧会会期	2022年11月15日(火) ～2023年3月5日(日)
開館時間	10:00～17:00 (入館は16:30まで)
休館日	月曜日
*ご来館の際には、TOTOミュージアムウェブサイトにて最新情報をご確認ください。 https://jp.toto.com/knowledge/visit/museum/	

News 3

ライフスタイル提案「十人十家」の バリエーション拡充

TOTO、DAIKEN、YKK AP(以下、TDY)の3社では、TDY商品でお客様のさまざまな暮らしの想いを叶えるライフスタイル提案「十人十家」を進めております。2022年には、住まいや暮らしに対する価値観

の変化に沿った4プランを新たに追加し、24プランとなりました。今後もお客様の暮らしのなかに笑顔があるリモデル実現を目指し、2025年度までに全50プランに拡充していきます。

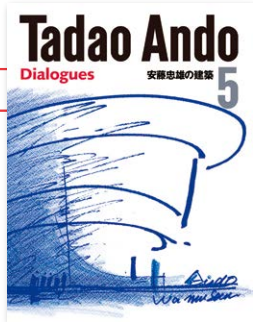


B Book1

TOTO出版のお知らせ

安藤忠雄の建築5 TADAO ANDO 5 Dialogues

安藤忠雄の建築を紹介する作品集の第5弾。本書では、2014年から2022年までのあいだに、国内外で闊いつづけた軌跡として、ブルス・ドゥ・コムルス(パリ)、震旦博物館(杭州)、ヴァレーギャラリー(直島)など19のプロジェクトを、写真や図面、スケッチを通じて紹介します。自分自身や社会に起こった大きな変化と向き合い、建築家がたどり着いた境地は、サブタイトルの「Dialogues」に表れています。



↑
present!

同封の「TOTO通信アンケート」に
お答えいただいた方の中から、
抽選で10名の方に
プレゼントいたします。

著者	安藤忠雄
定価	5,390円 (本体4,900円+税10%)
体裁	250×190mm、ハードカバー、 408ページ
発行	2022年10月

B Book2

TOTO出版のお知らせ

HOLZ BAU [増補版]ホルツ・パウ ——近代初期ドイツ 木造建築

近代初期ドイツ木造建築の知られざる名作を日本の建築家がリサーチした、創造的探求の記録。取材時の写真や図面により作品をビジュアルで紹介するとともに、取材プロセスを描いた漫画で現地での感動を表現。リサーチへの向き合い方を議論した鼎談や論考も収録。2020年に著者が自費出版した書籍に、アトリ

Holz Bau—Timber Architecture in the Early Modern Period of Germany: Expanded Edition
TOTO Publishing | ISBN978-4-88706-398-3 | [増補版]ホルツ・パウ——近代初期ドイツ木造建築
Kotsumi Publishing | Hiroshi



エ・ワンの塚本由晴氏との新規鼎談を加えた増補版。

編集・企画	福島加津也、富永祥子、 本橋仁、佐脇礼二郎
定価	4,290円 (本体3,900円+税10%)
体裁	256×158mm、 ソフトカバー、392ページ
発行	2022年9月

I Information

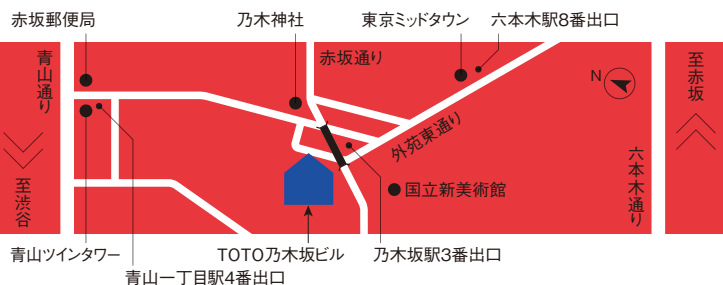
TOTO乃木坂ビル

東京都港区南青山1-24-3
TOTO乃木坂ビル

3F TOTOギャラリー・間	電話/03(3402)1010 定休日/月曜日・祝日・夏期休暇・年末年始 入場料/無料 ※最新情報は、TOTOギャラリー・間ウェブサイト (https://jp.toto.com/gallerma)をご参照ください。
2F Bookshop TOTO	電話/03(3402)1525 定休日/月曜日・祝日・「TOTOギャラリー・間」休館中の土曜日・日曜日・夏期休暇・年末年始 ※詳細はBookshop TOTOウェブサイト (https://jp.toto.com/bookshoptoto)をご参照ください。
2F TOTO出版	電話/03(3402)7138 全国の書店でお求めください。 直営店Bookshop TOTOでもお求めになれます。
B1・1F セラトレーディング	電話/03(3402)7134(東京ショールーム) 定休日/月曜日・祝日・夏期休暇・年末年始 ※事前予約制。 変更の可能性があるため、詳細はウェブサイト (https://www.cera.co.jp/showroom)をご参照ください。

アクセス

- 東京メトロ千代田線「乃木坂」駅下車3番出口徒歩1分
- 都営地下鉄大江戸線「六本木」駅下車8番出口徒歩6分
- 東京メトロ日比谷線「六本木」駅下車4a番出口徒歩7分
- 東京メトロ銀座線・半蔵門線・都営地下鉄大江戸線「青山一丁目」駅下車4番出口徒歩7分



C Cera

セラトレーディングのお知らせ

「VERO AIR」シリーズに 手洗器を追加ラインアップしました



セラトレーディングでは、ドイツ・DURAVIT(デュラビット)社の「VERO AIR(ヴェーロ エア)」シリーズに、新たに手洗器をラインアップしました。長方形を基礎とする「VERO」シリーズのデザイン言語を踏襲し、より直線的でシャープに洗練されたフォルムが特徴です。先行して洗面器を3サイズご用意しており、手洗器の登場により住まいのプランニングに選択肢が増えました。新

しい生活様式もすっかり定着した今、玄関から水まわりに直接アクセスできる間取りも増えているようです。動線上へのご計画にもぜひご検討ください。

VERO AIRシリーズ

手洗器 DV072445-00
希望小売価格:76,000円(税抜)
当商品を掲載した「セラ総合カタログ2022」はウェブサイトにてご請求ください。

ウェブ→
<https://www.cera.co.jp>



次号「TOTO通信」は2023年4月発行の予定です。



THE CRASSO

ザ・クラッソ



SYNLA

シンラ



Octave

オクターブ



NEOREST

ネオレスト

#水まわり嬉しい

キッチンがあかると、
 浴室がきもちいと、
 洗面所が使い心地いと、
 トイレがいつもクリーンだと、
 ひとは嬉しいものですね。
 TOTOはかなえたい。
 あなたの、水まわり嬉しいを。

商品のお問い合わせは
 TOTOお客様相談室 ☎ 0120-03-1010 受付時間 9:00~17:00
 (夏期休暇・年末年始を除く)

東陶屋キャンペーンサイト
<https://jp.toto.com/pages/knowledge/campaign/totoya>



『TOTO通信』のお届け先などの変更はお客様No. (封筒の宛て名ラベル右上に記載)も併せて下記までご連絡ください。
 TOTOカタログセンター内 TOTO通信データ管理室 TEL.093(563)2055 FAX.093(571)0999
 *当社ならびに当社グループ会社は、個人情報の保護を社会的責務と考えます。お客様からお預かりした個人情報は、
 関連法令および社内諸規定に基づき慎重かつ適切に取り扱います。詳細はTOTOウェブサイト(<https://jp.toto.com>)をご覧ください。



この情報誌には植物性・森林認証材などを原材料とする環境に配慮した用紙を、さらに印刷インクも植物性・森林認証の植物油インクを主に使用しています。